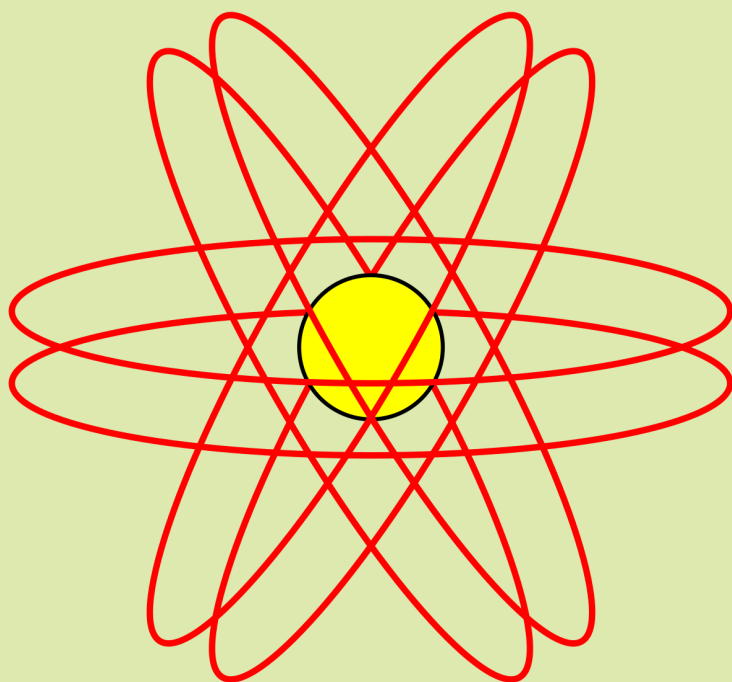


★試用版★

# 宗教学雜考集

易理・始源論・神義論



JRF 著



宗教学雑考集  
易理・始源論・神義論  
(試用版)

JRF 著

2025年3月11日 第1.0版



# 目次

はじめに.....	9
第1章 我思うゆえにありうるのは我々までである .....	13
デカルトとアンサンブル学習 13/ 我思うゆえにありうるのは我々 までである 14/ 熟慮の複数 15/ 諸法無我 16/ 有神論の基本定理 17/ パンくず 17/ 必需品と贅沢品の宇宙的独立関係 17/ 易の小集 団主義 17/ 日本は若者専門家中心の専制的国家に 20/	
第2章 『「シミュレーション仏教」の試み』の骨子.....	21
本目的三条件 22/ 法印 22/ 諸法皆空 23/ 本目的三条件の十分性 23/ システム三条件 23/ 最適化の実際の方針 24/ プログラム作成 時に気付いたこと 24/ 実験の目論見 24/ 実験結果 24/ コラム なぜ 生きなければならないのか 24/ コラム 来世なんてない 24/ コラム 信頼度付き論理？ 法的事実の記号論理？ 24/ コラム 「捨て扶持」 理論 25/ コラム カルマと偶然 25/ コラム 荒廃世界の幻想 25/ コ ラム シミュレーション・キリスト教？ 25/ コラム 『「シミュレー ション仏教」の試み』のあとがき (抜粋) 25/	
第3章 易理.....	27
鬼神論 27/ 吉凶悔吝 28/ スピノザの感情理論における悔吝 28/ 象 数易と義理易 28/ 象または天意について 29/ 書経から象数易へ 29/ 荀子と孟子 29/ 孔子と易 29/ 義理易の実際 29/	
第4章 進化論 .....	31
バベルの塔 31/ 創造論と進化論 31/ イメージによる進化 31/ 目的 の多層性 31/ トーテミズム 31/ マナ 31/ 遊び 32/ キメラ 32/ 大陸 移動説 32/ オッカムの神概念とマナと悉有仏性 32/ 文化伝播論と	

合目的的發展論とユングの元型論 32/ わび・さび とハインツウェレ  
神話 32/

**第5章 葬送論 ..... 33**

魂の座 33/ 骨食から埋葬へ 33/ 霊概念の成立 33/ トーテミズムと  
祖先崇拜 33/ 喪 33/ イナンナの冥界降り 33/ 金属の盗掘・王家の  
谷 34/ 石棺・幽霊と絶滅 34/ 「八方」の玄義 34/ 儒教・焚書坑儒  
34/ 慰安婦像とカノッサの屈辱 34/ 日本で黒人奴隷の流行があっ  
た？ 34/ 相続税の呪い 34/

**第6章 始源論・宇宙論 ..... 35**

ゼノンのパラドクス「アキレスと亀」 35/ 無限観 35/ フラクタル  
次元とエルゴード性 35/ 虚数と超ひも理論 35/ ホログラフィック  
原理と反ド・ジッター宇宙 35/ 縁起論 35/ 物理因果と唯心論 36/  
モンティ・ホール問題とファインチューニング 36/ 阿弥陀仏と最  
後の審判 36/ 始源論 36/ 因果応報の神 36/ 偶然 36/ 大乘仏教的議  
論 36/ 目的論的發展と無からの創造 37/ 悪 37/ 法と戒 または 天  
上論 37/ 日本の創造 37/ 鬼神論と始源 37/ 「転生」と「最後の審  
判」の並存・調和を具体的に考える 37/ メタ、private、有限階の  
神 37/ 神の存在証明を論駁する 38/ 社会の反応エネルギー - 「中  
道」 38/ 終末論法を論駁する 38/ シミュレーション・アーギュメ  
ントを論駁する 38/

**第7章 神義論・支配論 ..... 39**

過去的神義論 39/ 善 39/ 死のときに知る報い 39/ カミとシン 39/  
私の信仰告白 39/ 魔境 39/ 還元主義・実用主義・医学的唯物論  
40/ 虚の世界 40/ 奇跡 40/ 政治が決める善 40/ 兄弟愛の成立 40/  
罪価計算 40/ 神の全知全能性 40/ 皇帝的神の全知全能性 41/ 救世  
主による救済論 41/ エックハルトの神 41/ ヨセフ物語「銀で試す」  
41/ ピラミッド 41/ 死と復活の信仰と秘伝 41/ 昆虫食と蜂蜜 41/  
人類の完全性 42/ 洞窟猿 42/ 人身供犠と古代宗教社会の成立 42/  
宗教金融と利子の禁止 42/ 支配の三類型 42/ 妖術師や邪術師、

神々の物語とマスコミ 42/ タブー 42/ 酒とタバコ 43/ 大晦日は合はぬ算用 43/ 初物 43/ 脱税神話 43/ 担税力の行政的考え方 43/ 祭と国家自由主義 43/ 死刑、法と人との愛 43/ 追善供養 44/ 祈り 44/ 「ありがとう」 44/ 私の、神への感謝 44/

## 第8章 他者としての神 ..... 45

梵我一如と解脱 45/ レヴィナスの「他者」と「顔」 45/ ダブルスタンダードの是認 45/ 偶像崇拜の禁 45/ 存在と当為、そして道德 45/ 律法や戒律による救い 45/ 天使として生きる 46/ 精神の根拠としての司書 46/ 独覚 46/ メンタライジング 46/ シャーマニズム 46/ 結婚 46/ 林住期と社会実現 46/ 感情は真実の種子 47/ 親として生きること 47/ 宇宙胎児 47/ 身体と影 47/ 聖霊と撤退する愛 47/ ジャンケンと世界樹 47/ 義人ノア 47/

## 第9章 宗教と性 ..... 49

ハイヌウェレ神話と子宮墓と「墮胎」 49/ 聖 49/ カデシュ 49/ 聖と清 49/ 苦行 49/ 共食儀礼 49/ 血の儀式 50/ 血を飲むことの禁忌 50/ 定住の呪い 50/ 定住文化と非定住文化 - イザナギの冥府降り 50/ 三種の神器 - 非定住文化による支配 50/ 栽培民の前段階としての狩猟民文化と永遠の生 50/ 男は労働 50/ ゲノムに残る不平等のしるし 51/ 近親相姦のタブー 51/ 成人儀式 51/ 成人と改宗 51/ 「差別は許されない」はいけない 51/ 売春と貨幣 51/ 性病 51/ 割礼 52/ 女子割礼 52/ 乳房 52/ 生物学的な死と性 52/ 臓器移植の意志 52/ 処女信仰と国民軍 52/ 夫婦愛と愛敵 52/ 国を治めるにはまず家から治めよ？ 53/ ポルノと姦淫 53/ 变成男子 53/

## 第10章 ハイパー・プラトニズム ..... 55

知性はどのように生じるか 55/ 開かれた社会と閉じられた社会 55/ 人類愛と閉じられた社会 55/ ユダヤ教とイスラム教の自己犠牲 55/ 死んだほうがマシを押し付ける社会 56/ 捕虜のように敵として生きる 56/ 開かれた社会の聖人のモデル 56/ レミングスの行進 56/ 閉じられた社会の自分の役割割り 56/ 法人の自己降下 56/ 機

械革命 56/ ハイパー・プラトニズム、スーパー・プラトニズム、  
ウルトラ・プラトニズム 57/ 奴隷の定義とウォークマンを買う自  
由 57/ 神秘主義 57/ 狂気の突破力 57/ 精神病あれこれ 57/ 開かれ  
た社会とエステル記 57/ 狂気の突破力と知性の維持 57/ 機械主義  
と法人の降下 58/ 核兵器による平和 58/

## 第11章 旧論 その1 .....59

メタ論理: 演繹と帰納 59/ 不完全性定理: 「真」「偽」「わからない」 59/ 真理の前には自由者も束縛される 59/ 前提と仮説、相手  
にとっては同じもの 60/ 絶対性 60/ 嘘つきにつける薬 60/ 信じる  
バカは恐ろしい 60/ 知への愛 60/ 時間の貨幣価値: 「金で買えない  
モノはない」か? 60/ 結果主義 60/ コンピュータ定理証明におけ  
る弁証法 - 私が作りたいシステム 61/ オブジェクト指向高階論理  
61/

## 第12章 旧論 その2 .....63

宗教的判断の認容 63/ 教義の内発性と外部の影響 63/ 錬金術 63/  
象徴の利用形態 63/ パンとぶどう酒、それぞれの意味 63/ イスラ  
ムと西欧(のキリスト教)の違い 64/ トロッコ問題と小さな善 64/  
クーラーを讃美するホラ話 64/ IT 革命と私 - 神学の忌避の向こう  
64/

## 第13章 旧論 その3 .....65

仏教は無神論か 65/ 四諦: 仏教教義の提案的解釈 65/ 仏教とキリ  
スト教: 教えの誠実さ 65/ 最後の審判を信じる者の浄土 66/ なぜ  
人を殺してはいけないのか - (抜粋) 66/

## 第14章 旧論 その4 .....67

神の全知性 67/ 自由意思と神の恩寵 67/ 神の前での平等 67/ 神は  
至善か、暴君か 68/ 義認説と予定説 68/ 「結果」の平等、「機会」  
の平等 68/ 自由意志に関する 50代の私の考え方 68/

## 第15章 旧論 その5 .....69

イエスはサタンか - 『新約聖書』ひろい読み 69/ たとえて説く理



由 - 『新約聖書』 ひろい読み 73/ 神殿とハト - 『新約聖書』 ひろい読み 73/ 正教とロシア革命前夜 - 『カラマーゾフの兄弟』 の《大審問官》を読んで 73/ 知識の実 - 『創世記』 ひろい読み 74/ ヤコブの一神教 - 『創世記』 ひろい読み 74/

## 第16章 易双六..... 75

概要 75/ プレイ 75/ トークンが上卦(4,5,6)にあるときのカードの動かし方 79/ トークンが下卦(1,2,3)にあるときのカードの動かし方 79/ (8)力 と (11)正義 の入れ換え 79/ 実験的追加ルール: 戦乱置換 79/ 経緯 79/ Booth にグッズあり！ 79/ 略式易双六 80/ 大アルカナの数表 80/

## 第17章 医術と奇跡..... 85

黄帝異聞 85/ A薬B薬 85/ 毒と欠乏 85/ 外科・外卦 85/ ガレノス 86/ ガネーシャ 86/ 漢方薬 86/ ホメオパシー・ヘテロパシー・アロパシー 86/ 共感魔術 86/ 薬と奇跡 86/ 医術と占術 86/ 転地療養 87/ 要訓練薬効 87/ 富裕層と難病 89/ 生殖 89/

## あとがき..... 91

## 参考文献..... 93



# はじめに

この本は、易理・始源論・神義論などといった宗教に関する哲学的な話題を雑多に集めた、引用の多い論考集です。宗教学とひとくちに言っても、歴史学や人類学から科学哲学まで言及する分野は広いです。

雑多な話題であるばかりでなく、著者の私はシンクレティスト(宗教こんこう混淆者)であるため、そのときどきに様々な宗教的立場に立って論じます。実用主義(プラグマティズム)や科学主義的に論を進めることもあれば、どこかの師に頼ったわけでもない東洋思想に偏ってみたり、自由意志を重く見る有神論から私自身の信仰を語ってみたりすることもあります。

著者は、宗教学の学者ではなく素人です。これに引っかけかりを感じる方は、いますぐ本を閉じてお帰りいただくべきです。その判断は間違いではないでしょう。

私はこれまで、宗教書などを読んで考えたことをブログなどに書き綴つづってきました。決して専門的ではないですが、独創性のありそうなアイデアもあるように自分では感じています。それが後世に遺ったらうれしい。ぜひそうしたいと思って、この本を書くことにしました。この本は私の「主著」と言えるでしょう。これ以上の本をこの先書くのは年齢的に・蓄積的に難しいと思われます。

ただ、類書に比べてとてもレベルが低いことは否めません。文学的訓練を受けてない者が、とっ散らかして書いたネットのメモを、不器用に寄せ集めただけの本です。この本を読んで参考になるような学者の方はおらず、また、エンターテインメント性がある本でもありませんから、広く読者を得られる本ではないでしょう。それを知ってもなお、なぐさみに「愚かな素人が何を考えてるかも見てみたい」という奇特な方

のみ、価値を見出せるわずかな可能性があります。

私はこれまで何冊か本を書きましたが、これまでどれもまったく売れてません。この本はそれらより売れないと考えています。ですから、この本を置いていただける書店またはプラットフォームの方々には申し訳ないかぎりですが、遺すために本の形にして国会図書館に納本するのが、この本の最大の目的というべきでしょう。

それでも、奇特な方が意外にたくさんいてこの本をおもしろいと思い、他者にすすめて広く読まれるようなことがあればそれはとてもうれしいことです。いっぱい売れたらそれはそれでうれしいです。

ただ、注意すべきは、この本は「素人が書いた宗教書」でもあるという点です。うさんくさいある種の新興宗教の本と同じカテゴリにあると人々からは思われる可能性があり、その点を気にする方は、他者にすすめるのはよしたほうがよいでしょう。もともと売れると思っていない本なので、ネットに感想などがいいことも想定済みです。

さて言い訳が先になりましたが、この本の内容をここで軽く紹介していきましょう。ここで、章の後の()内は、章の略称です。版が変われば章番号も変わるかもしれませんが、章に言及する際は略称とともにさせていただくのが便利です。

第1章(我思)「我思うゆえにありうるのは我々までである」。デカルトの「我思う故に我在り」を部分的に否定し、全体主義とその抵抗策の一案を語ります。

第2章(シミュ仏)「『**シミュレーション仏教**』の試み」の骨子。私の前著についてその哲学的側面の骨子を語ります。

第3章(易理)「易理」。『**論語**』の成立以前の鬼神<sup>なぞら</sup>を語る理に擬えた易理と、易の周辺について語ります。

第4章(進化論)「進化論」。イメージによる進化という議論を中心に、トーテミズムなどを語ります。

第5章(葬送論)「葬送論」。霊魂という概念の来歴から、葬送の変化を語ります。

第6章(宇宙論)「始源論・宇宙論」。疑似物理学も駆使して主に仏教的な宇宙論を語ります。

第7章(神義論)「神義論・支配論」。人から見た神の善の限界から、宗教を通じた人による支配などを語ります。

第8章(神論)「他者としての神」。<sup>ぼんがいちによ</sup>梵我一如という概念を中心に、他者としての神を語ります。

第9章(性論)「宗教と性」。性の問題と聖の問題を語ります。

第10章(ハイプラ)「ハイパー・プラトニズム」。ベルクソンを読みながら、将来を見据えた自由の問題を語ります。

第11章(雑1)「旧論 その1」。旧論では私にとって古いブログ記事を紹介します。その1では論理的な雑考を語ります。

第12章(雑2)「旧論 その2」。宗教学の概論的なブログ記事をまとめます。

第13章(雑3)「旧論 その3」。仏教に関して旧論を見ていきます。

第14章(雑4)「旧論 その4」。キリスト教神学を扱います。

第15章(雑5)「旧論 その5」。聖書の解釈として私の印象に強く残ったものを少し書き残します。

第16章(易双六)「易双六」。付録として、私が作ったタロット・ソリティア・ゲームの紹介をします。

第17章(医術論)「医術と奇跡」。東洋医学・西洋医学・奇跡を総合して雑駁に語ります。

なお、この本の前に私は宗教学書として『[道を語り解く](#)』と『[シミュレーション仏教](#)の試み』という二冊の本を書いています。『[シミュレーション仏教](#)の試み』については第2章(シミュ仏)でその骨子を説明しますので、特にお読みいただく必要はありませんが、『[道を語り解く](#)』については適宜引用しますが、安いのでできれば買うか、元のブログ<sup>たど</sup>を辿るかして先に読んでいただければ幸いです<sup>さいわ</sup>。

この本を読んだ方が、反面教師的でもよいので、何か得るところがあれば幸いです。なお、本論に入ってから「です・ます」調ではな

く、「だ・である」調になります。あとがきでは「です・ます」調に戻ります。

では、本論に入ります。

# 第1章

## 我思うゆえにありうるのは我々までである

(我思)

### ■ デカルトとアンサンブル学習

近現代の礎石であるデカルトの言葉「我思う、故に我在り」は、全てが虚偽だったとしても、「自分は本当は存在をしないのではないか？」と疑ったとしても、そう疑っている自分の存在は否定できない...という証明で、かつては神に依拠していた多くのことがらが、個人主義的な視点から考えられるようになる転機となった...という (参: 《[我思う、ゆえに我あり](#) - Wikipedia》)。

しかし、私は思う。「我思う」ゆえにありうるのは「我々まで」ではないか...と。

AI の技法にアンサンブル学習というものがある。複数の学習器を用い、それらの示す中から多数決などで良いものを選ぶ手法である。もちろん選ぶところに主体性を考えることもできるが、「思う」ことをしているのは、基本的に多数の部分である。

それと同様に人は、様々な身体部位から上がってくる情報から自分を選んでいっている面があるとみる。確かに多くの場合、最後は主体性を持って全てを統合して出力している。しかし、無意識の動作はあって完全に統合されるわけではなく、脳の思考もいろいろな考え方が同時に渦を巻く。

「我思う」ぐらいで指し示すのは、そういったあいまいな情報源(いわば「我々」)のうちに一つを主体性を持って選べるということを示すのみであって、具体的な「我」を指し示すには、我がどういう思考を好むか、または、どういう身体性を持っているかなどで規定される必要があ

るだろうと考える。

「我思う」だけではそこに確実な身体性はない。仮に、私の外に「霊」があって、それが実際には思っていたことを脳が「私は思っている」と解釈しているだけとすれば、「我思う」としたところで、外の霊なのかそれとも身体にある「私」なのかは判別できないはずだ。逆に、確かに、「我思う」とすることが、身体の外にあるものも含めた「我々」という具体的複数者が指せるわけでもない。それは認める。しかし、「我思う」で示せるのは「我」そのものではなく曖昧模糊とした「何か」のみなのだとは言える。身体が確かにありそれが「我」だとすでに決まっていたならば、「我思う」でも「我」が示せただろうというだけの話だ。

アンサンブル学習を使わない決定的な AI があった場合、この点をどう考えるか。この場合は、「我思う」に相当するのは、それを実行するコマンド名のみで、具体的な「我」または「我はこう考えたという結果」は、その途中にある「我への傾向性」の積み重ねという「我々」を経た出力に、身体性に相当する実体性があると考えればよいのだろう。

## ■ 我思うゆえにありうるのは我々までである

我思うゆえにありうるのは我々までであって、我が自立して存在するとまではいえない。しかし、常に我々と思えないほど人は絶望的に孤独であり、そこに多くとも「我」しかない。孤独ということは、私を我々と思うのを Imaginary に留めねば、生物として危ういということである。

我々は必ずしも思いどおりにならない「私」達の集りで、ならば、「私」は「我々」に少なくとも在ったのか。...というところではない。変転する無私的なものから偶然「私」が起ち上がったとき、我々も存在していたと気づくに過ぎない。

「我々」というものはある意味最初からありうるが、己というのは、そういう「我々」がいろいろ試す中で限界を知って、得られる知識...境界の知識でしかない...というのが私の考え方である。我々を境界して



私になる...境界に意味がある。他と違う比較的自由に意味がある。例えば、所有＝己のものというのも境界としてちゃんと意味がある。

人は産まれてくるものだから、最初(受胎以前)は今の己はないんだというのは多くの人は合意できると思うし、永遠はなかなか想像できないから、アトマン＝常住不滅の真我みたいなものが「なければならぬ」みたいなことはない...というのも合意できると思う。しかし、実体が現にある以上、己に実体がないというのはなかなか合意できないものだ。生物として常に危機にさらされている「実体」という規制が己を形作る。それがデカルトの根拠になっていたのだろう。

第2章(シミュ仏)に後述するが、だいたい、なぜ「生きなければならぬ」かということ、かつて宇宙に安住があったことの反作用として総意として「生きたい」があり、その総意を受け継ぐために個々に「生きなければならぬ」があるのだ...と、とりあえず私は考えることにしている。

総意が個を作るわけではないが、意は与えられた個の中で個々に総意から個の意に致るのではないか。与えられた個の中で「我々」から「己」に致るのではないかと考える。それはまるで雑霊が集まって人の霊となるかのように読めるかもしれないが、そういうことではない。「我々」というのも後からできあがった「己」が振り返ったとき、そのある意味「無明」の状態をそういうしかない...という程度のことである。「我々」は、「雑霊」というよりは、多次元的な神的存在達の交差＝傾向性の積み重ね、または多層的な最適化に近いと言ってみたい。

## ■ 熟慮の複数

私のこのアイデアは、旧約聖書『創世記』からヒントを得ている。

神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配せよう。」神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創

造された。男と女に創造された。(旧約聖書『創世記』1:26-1:27)

この部分をとって、人は神のにすがた似像(似姿)に創造されたなどとも言われる。

ここで、唯一神であるのになぜ「我々」を自称として使うのかが問題とされてきた。通常は熟慮の複数と呼ばれ、古いヘブライ語の文法に帰されることが多いが、伝統的に様々な解釈も許され、その伝統の積み重なりにも意味があると私は考える。そこの解釈の一つが、次のようなものである。いわく、

神の中に神のイメージがあるのならば、全能な神がするイメージである以上、イメージの中の神は完全な神である。当然そのイメージの中の神自身もイメージを持つはずで、イメージの中の神の、さらにイメージの中に、神のイメージがあるはずである。それは、あたかも合わせ鏡のごとく、無限に神のイメージを作り出す。神のイメージを取り出してアダムを作ったが、アダムの中には神のイメージのイメージであると同時に神のイメージとしては同等なイヴの要素が含まれていた。神はアダムの肋骨で表されたこの「神のイメージのイメージ」からイヴを創った。人の子孫は、男と女の合わせ鏡が生み出す、神の無限のイメージの連鎖から生まれてくる。

...というものである。この「合わせ鏡」の「我々」が「私」の中にも不完全ながらあると私は考えがちなのだ。

## ■ 諸法無我

(割愛)

## ■ 有神論の基本定理

(割愛)

## ■ パンくず

(割愛)

## ■ 必需品と贅沢品の宇宙的独立関係

(割愛)

## ■ 易の小集団主義

この全体主義への対抗策の一案として、易占い集団の独立性を挙げよう。

易経には「崇高は富貴より大なるは莫<sup>な</sup>し」という経済的成功を称揚する節がある。易経は占いの書でありながら科学的・即物的で、資本主義的な一面を持っている。易には読み込む「自由」があり、占いで立てる身には「独立」がある。もちろん、易経には階級も描かれている。しかし、片側に階級も許すくらい自由でなければ真の自由でもないと思う。

ここで、占いの原理を簡単に考えよう。

占って(悪い)運命を予言したとき、それを行動によって避けることができれば、占いの効用であるし、そうでなければ、運命の神は・天意は、その程度ではどうにもできないほど強力だということになる。

占って良い運命を予言することは祝福・気休めである。行動ののち良い運命が実現しなかったのなら、行動は何か裏切ってなされたのであり、その者が悪いということになる。運命の神が、天意が悪いわけではない。

もう少しまとめよう。悪い運命／良い運命 を予言し、必要な行動をアドバイスし、必要な行動が満たされる／満たされない 上で、予言が実現する／実現しない という「／」で場合分けしよう。

まず、悪い運命を予言する場合。

必要な行動が満たされ予言が実現しない場合、と、必要な行動が満たされず予言が実現した場合は、占者がうまく予言しアドバイスしたことになり、占者も神もプラス評価を得る。

一方、必要な行動が満たされないのに予言が実現しなかった場合、これは占者が失敗したことになる。占者がすべての責任を引き受けて神を免責することもできようが、基本は、占者も神もマイナス評価を得る。

特殊なのは、必要な行動が満たされたのに予言が実現した場合である。これは占者が失敗し、占者の評価はマイナスになるのだが、運命の神の力はむしろ強かったとしてプラス評価になる。これがカラクリの核である。

次に、良い運命を予言する場合。

必要な行動が満たされ予言が実現する場合、と、必要な行動が満たされず予言が実現しない場合は、占者がうまく予言しアドバイスしたことになり、占者も神もプラス評価を得る。

一方、必要な行動が満たされたのに予言が実現しなかった場合、これは占者が失敗したことになる。占者がすべての責任を引き受けて神を免責することもできようが、基本は、占者も神もマイナス評価を得る。

そして、必要な行動が満たされないのに予言が実現した場合。これは占者が失敗し、占者の評価はマイナスになる。一方、運命の神の力は強かったとはならない。罰されるべきなのに神が罰しないからである。神の評価もマイナスになる。

占者にとって、良い悪い、行動の満不満、実現非実現は、基本的にイーブンであるのに対し、神にとっては、悪い予言で必要な行動が満たされたのに予言が実現した場合に余計にプラスになるため、長く占いを続けていれば、神の評価はプラス方向に動いていくことになる。

占いは神に有利なのだ。

ところで、占者が占いによらず良い運命が訪れるか悪い運命が訪れるか自分で判断するでしょう。すると、上で「特殊」とした場合において、占者の評価がマイナスになると同時に、判断した占者の神の力がプラス評価されるということが起きる。良い運命や悪い運命を公平に選んでも長くやればやはりプラスになるにしろ、占者は有利な悪い運命ばかりを予言したくなる。そうすると、悪い結果ばかりが起こるのではないから効果が薄くなるわりに、人々からは疎まれるようになる。一神教の預言者が悪い運命ばかり予言して疎まれるのも、このあたりに理由があるのかもしれない。

占者がコントロールするのは「必要な行動」が何であるかという部分にすべきなのだろう。例えば、失せ物探しなど具体事を占うとき、必要な行動は簡単に満たされるわりに「見つかる」という良い予言は実現しないことが多くなる。占者・神にマイナス評価になりがちだ。そういうときは、具体的な行動を指定するのではなく、見つかるうが見つかるまいがいずれにしろ役に立つ倫理的なアドバイスをすれば、必要な行動は簡単に満たせなくなり、必要な行動ができず見つからない場合は、マイナス評価につながらないし、必要な行動ができて見つからなかった場合も、その行動が別途役に立っているなら、マイナス評価を補うことができる。

そのような倫理的アドバイスを適しているのが、義理易(参: 第3章(易理)《象数易と義理易》)を取り入れた易占になろう。逆にそういう倫理的アドバイスをよしとしない場合、具体事を占えば、神の信用を毀損することになる。このあたりが、一神教が占いを否定した理由なのではないか。

ただ、易占は倫理的なアドバイスなく具体事を占うことがある。それは、易占は商売で、商売のためだから、すべての人に信じさせる必要はなく、カルト的な人気を得ればよいからであろう。占断して天意が疑われる結果になったとしても、そういう人は去る者は追わず...とするのである。逆にうまくいけば、カルト的人気を稼げるわけだから。

この辺りが、易占が「技術」であることのゆえンである。そのカルト性こそ易の小集団主義である。広い信仰を目指さないカルト性を保てば、全体が人口減を求めるなか、家族存続のインセンティブを持ち続けることができるかもしれないし、全体主義の「合理性」の中、非合理的なランダム性を言いわけにして自由と独立を維持できるかもしれない。

占いでは神が有利であるとしても、神に間違いの可能性がある意味認めているわけで、そこでは一神教的な絶体的な神という印象は薄くなる。そういう相対的...というと語弊があるが、非絶対的な「控えめな」神であることに満足するのが、むしろ、易経的宗教性なのかもしれない。

あと、そもそも悪い運命をなぜ神が決めるか。これも大きな問題である。これについては、後に第7章(神義論)で議論する。

## ■ 日本は若者専門家中心の専制的国家に

(割愛)

## 第2章

# 『「シミュレーション仏教」の試み』 の骨子

(シミュ仏)

私がこの『宗教学雑考集』の前に書いた『「シミュレーション仏教」の試み』は Python プログラムの解説と哲学的解説のまざった本だったが、『宗教学雑考集』の論の前提となるので、その哲学的部分についての骨子をこの章では書いていこうと思う。哲学的部分が知りたいだけなら前著に戻る必要がないぐらいに書き出すので、かなり長くなる。

数学には証明があり、科学には実験があり、考古学にはフィールドワークがあり、宗教学には古典原文の探求または浩瀚な文献知識がある。そういった「根拠」は基本的にこの『宗教学雑考集』にはない。しかしあえて挙げるなら、「シミュレーション仏教」の枠組で行ったプログラムの作成と実験が私独自の根拠・強みとなるだろう。私にとって大切な作業だった。ここが私にとっての新たな出発点とも言えるだろうから、説明が長くなる。

「試み」とあるように思い通りに完成したプロジェクトではない。しかし、私の理論は、議論を単純化し、いずれこのようなシミュレーションに載ることを核として目指すことを示すものとしてはこのプロジェクトで十分と考える。このプロジェクトと同じように、完全なものとなることをそれほど求めないが、一方でシミュレーションの理想のためならかなり現実を捨象することもいとわないのが、このプロジェクトに限らず、私の研究の姿勢となろう。

ただし、本来『「シミュレーション仏教」の試み』は工学者向けに書かれた本であり、それはこの『宗教学雑考集』の想定読者とはかなり異なる。この章は、その点、特別な難しさがあることは否めない。議論の順序を考えてこの章をここに置いたが、この章は、ザッと読んで、次の章以降の議論に移っていただいても問題ない。例えばカントやヘーゲ

ルのような厳密な議論を私はしないので、この章の細かい部分を知らなくても、次の章以降問題なく理解できると思う。普通の読者には、次の章以降のほうが読みやすいと思われる。

## ■ 本目的三条件

(割愛)

## ■ 法印

なお、仏教をひとくちに言ってしまうときに、「法印」という概念がすでにある。法印には、三法印・四法印・一実相印がある。それと本目的三条件との関係を考えてよう。

《[四法印 - Wikipedia](#)》によると、四法印は以下からなる。

諸行無常 - すべての物事は常ならざるものである。

諸法無我 - すべての物事は我ならざるものである。

一切皆苦 - この世のすべては苦しみである。

涅槃寂静 - 涅槃は安らぎの境地である。

このうち、一切皆苦を除いたものを三法印とする。なお、このような三法印・四法印ではなく、大乘では一実相印のみがあるとすることも多いようだ。一実相印とは、諸法実相 ... 全ての存在はありのままの真実の姿である ... といったことらしいが、解釈にはいろいろあるらしい。

「諸法無我」については第1章(我思)で語った。それに関連して、プログラミングしていく上で、「自己の探求がよい」は、そのままでは実装しにくく、「自己」を落として、「思考と思念を深めるのがよい」とあらためた。(社会的にも)「生きなければならない」があれば、いろいろただ思考を深めるより自己に対する思考を深めたほうが有利であろうから、落としても問題ないと考えた。

「一実相印」については、簡単化されたシミュレーションである以上



「ありのまま」に見ることはかなわなくなる。シミュレーション的に世界を観ることをただ詳細に、どこまでも高性能なコンピュータで化け物じみて詳細にしながら、人の心の中など詳細を実験的に得られない限度において、結局はそれを想像で補うというなら、それは「ありのまま」からもっとも離れたものになるだろう。「ありのまま世界を見る」ということは、地動説やコンピュータなどその時代時代に使えるツールを使いながらも、必然的に自己がどう見るかを含み、我を無にしていく中でも最後の最後まで我は残って完成するものなのかもしれない。「自己」は落とせないということで、私の今回の行き方とは逆なのだろう。

法印のうち、「涅槃寂静」が「来世がないほうが良い」...として、「一切皆苦」が逆に苦の中を生きるべきだということで「生きなければならぬ」に、すると残りの「諸行無常」が「思考と思念を深めるのがよい」に相当するのだろうか。むしろ、一実相印...諸法実相として挙げられることのある空観のほうが「思考と思念を深めるのがよい」となり、「諸行無常」は「諦観」が大事であって、「来世がないほうが良い」に含まれるということだろうか。

## ■ 諸法皆空

(割愛)

## ■ 本目的三条件の十分性

(割愛)

## ■ システム三条件

(割愛)

## ■ 最適化の実際の方針

(割愛)

## ■ プログラム作成時に気付いたこと

(割愛)

## ■ 実験の目論見

(割愛)

## ■ 実験結果

(割愛)

## ■ コラム なぜ生きなければならないのか

(割愛)

## ■ コラム 来世なんてない

(割愛)

## ■ コラム 信頼度付き論理？ 法的事実の記号論理？

(割愛)

## ■ コラム 「捨て扶持」理論

(割愛)

## ■ コラム カルマと偶然

(割愛)

## ■ コラム 荒廃世界の幻想

(割愛)

## ■ コラム シミュレーション・キリスト教？

(割愛)

## ■ コラム 『「シミュレーション仏教」の試み』の あとがき (抜粋)

(割愛)



## 第3章

### 易理

(易理)

#### ■ 鬼神論

世を混沌と物理(もののことわり)に分ける。混沌から物理をたち上げるとき、要素還元主義的に物の理を追っていくことには限界が必ずあり、物のはじまりを擬制せねばならない。その擬制されたものを鬼と呼ぶ。鬼と物の理も含めたところに全体的な働きが現れることがある。その働きを神と呼ぶ。天意は神の一種と見えなくもない。人心は、神とも見えるがむしろ鬼のように私は思う。鬼・神は起・信なり。

混沌・物理・鬼神。ものの相の一面である。鬼神も、結局は物理も、擬制的なものであり、すべては混沌と言っても間違いではない。

易占いの方法は、現在はコインを投げて占う擲錢法てきせんほうがよく使われているかもしれないが、本来は本筮法ほんぜいほうや略筮法りやくぜいほうなど筮竹を使う。そういう複雑な方法はいわば宗教的儀式としての効果がある。儀式には決まりがあり、外からの影響やわずかな差異が排除された「清い」時間と空間を使う。逆に儀式もできないということが、(その妨害が直接的には魔や人の姿であったとしても、)怪力乱神の存在を示すと言える。儀式ができているということが一定の信＝神を現す。そこでは神を見ていると言っている。

人の心は様々なレベルを通して作用する。儀式の次第をなすのも儀式をしようと決めるのも人なのだ。怪は人の心に作用するものかもしれ

れないが、人の心が怪を呼んでいるのかもしれない。そんな中、内なる心では容易に操作できなかったものとして、易の卦<sup>か</sup>が起こる。それは確実に一つの鬼として、占いを支配するものの一つになる。

この章では「易理」を論じる。中国の古典『易経』とそれに基づく易占いについても論じるが、まずは、それらにはない鬼神の話からはじめた。これが「易理」の一部である。なぜ易経を語るでもない原中国の思想に擬したものを「易理」と私は呼ぶかという、鬼神を論じない孔子の前の哲学を論じたかったからだ。孔子は「怪力乱神を語らず」(『論語』述而篇)と言われるが、この章では「怪力乱神」を直接的ではないかもしれないが、おぼろげにその存在を認めつつ思考していく。なお、通常「易理」と言えば、易の理屈ぐらいの意味しかなく、私の語法はそれに逆らっている。

なお、第1章(我思)《有神論の基本定理》について、それが成り立っていなくても、「鬼神は起信なり」の神の認識は定義上、存在しうる。これは因果応報以前の神ということになろう。唯一神信仰は因果応報を超越していると説く場合があるが、その超越性のむなしい射影として、因果応報以前の神<sup>シン</sup>があったのだろう。

## ■ 吉凶悔吝

(割愛)

## ■ スピノザの感情理論における悔吝

(割愛)

## ■ 象数易と義理易

(割愛)

## ■ 象または天意について

(割愛)

## ■ 書経から象数易へ

(割愛)

## ■ 荀子と孟子

(割愛)

## ■ 孔子と易

(割愛)

## ■ 義理易の実際

(割愛)





# 第4章

## 進化論

(進化論)

### ■ バベルの塔

(割愛)

### ■ 創造論と進化論

(割愛)

### ■ イメージによる進化

(割愛)

### ■ 目的の多層性

(割愛)

### ■ トーテミズム

(割愛)

### ■ マナ

(割愛)

## ■ 遊び

(割愛)

## ■ キメラ

(割愛)

## ■ 大陸移動説

(割愛)

## ■ オッカムの神概念とマナと悉有仏性

(割愛)

## ■ 文化伝播論と合目的的発展論とユングの元型論

(割愛)

## ■ わび・さび とハイヌウェレ神話

(割愛)

# 第5章

## 葬送論

(葬送論)

### ■ 魂の座

(割愛)

### ■ 骨食から埋葬へ

(割愛)

### ■ 霊概念の成立

(割愛)

### ■ トーテミズムと祖先崇拜

(割愛)

### ■ 喪

(割愛)

### ■ イナンナの冥界降り

(割愛)

## ■ 金属の盗掘・王家の谷

(割愛)

## ■ 石棺・幽霊と絶滅

(割愛)

## ■ 「八方」の玄義

(割愛)

## ■ 儒教・焚書坑儒

(割愛)

## ■ 慰安婦像とカノッサの屈辱

(割愛)

## ■ 日本で黒人奴隷の流行があった？

(割愛)

## ■ 相続税の呪い

(割愛)

# 第6章

## 始源論・宇宙論

(宇宙論)

### ■ ゼノンのパラドクス「アキレスと亀」

(割愛)

### ■ 無限観

(割愛)

### ■ フラクタル次元とエルゴード性

(割愛)

### ■ 虚数と超ひも理論

(割愛)

### ■ ホログラフィック原理と反ド・ジッター宇宙

(割愛)

### ■ 縁起論

(割愛)

## ■ 物理因果と唯心論

(割愛)

## ■ モンティ・ホール問題とファインチューニング

(割愛)

## ■ 阿弥陀仏と最後の審判

(割愛)

## ■ 始源論

(割愛)

## ■ 因果応報の神

(割愛)

## ■ 偶然

(割愛)

## ■ 大乘仏教的議論

(割愛)

## ■ 目的論的發展と無からの創造

(割愛)

## ■ 悪

(割愛)

## ■ 法と戒 または 天上論

(割愛)

## ■ 日本の創造

(割愛)

## ■ 鬼神論と始源

(割愛)

## ■ 「転生」と「最後の審判」の並存・調和を具体的に考える

(割愛)

## ■ メタ、private、有限階の神

(割愛)

## ■ 神の存在証明を論駁する

(割愛)

## ■ 社会の反応エネルギー - 「中道」

(割愛)

## ■ 終末論法を論駁する

(割愛)

## ■ シミュレーション・アーギュメントを論駁する

(割愛)



# 第7章

## 神義論・支配論

(神義論)

### ■ 過去の神義論

(割愛)

### ■ 善

(割愛)

### ■ 死のときに知る報い

(割愛)

### ■ カミとシン

(割愛)

### ■ 私の信仰告白

(割愛)

### ■ 魔境

(割愛)

## ■ 還元主義・実用主義・医学的唯物論

(割愛)

## ■ 虚の世界

(割愛)

## ■ 奇跡

(割愛)

## ■ 政治が決める善

(割愛)

## ■ 兄弟愛の成立

(割愛)

## ■ 罪価計算

(割愛)

## ■ 神の全知全能性

(割愛)

## ■ 皇帝的神の全知全能性

(割愛)

## ■ 救世主による救済論

(割愛)

## ■ エックハルトの神

(割愛)

## ■ ヨセフ物語「銀で試す」

(割愛)

## ■ ピラミッド

(割愛)

## ■ 死と復活の信仰と秘伝

(割愛)

## ■ 昆虫食と蜂蜜

(割愛)

## ■ 人類の完全性

(割愛)

## ■ 洞窟猿

(割愛)

## ■ 人身供犠と古代宗教社会の成立

(割愛)

## ■ 宗教金融と利子の禁止

(割愛)

## ■ 支配の三類型

(割愛)

## ■ 妖術師や邪術師、神々の物語とマスコミ

(割愛)

## ■ タブー

(割愛)

## ■ 酒とタバコ

(割愛)

## ■ 大晦日は合はぬ算用

(割愛)

## ■ 初物

(割愛)

## ■ 脱税神話

(割愛)

## ■ 担税力の行政的考え方

(割愛)

## ■ 祭と国家自由主義

(割愛)

## ■ 死刑、法と人との愛

(割愛)

## ■ 追善供養

(割愛)

## ■ 祈り

(割愛)

## ■ 「ありがとう」

(割愛)

## ■ 私の、神への感謝

(割愛)

# 第8章

## 他者としての神

(神論)

### ■ 梵我一如と解脱

(割愛)

### ■ レヴィナスの「他者」と「顔」

(割愛)

### ■ ダブルスタンダードの是認

(割愛)

### ■ 偶像崇拜の禁

(割愛)

### ■ 存在と当為、そして道德

(割愛)

### ■ 律法や戒律による救い

(割愛)

## ■ 天使として生きる

(割愛)

## ■ 精神の根拠としての司書

(割愛)

## ■ 独覚

(割愛)

## ■ メンタライジング

(割愛)

## ■ シャーマニズム

(割愛)

## ■ 結婚

(割愛)

## ■ 林住期と社会実現

(割愛)



## ■ 感情は真実の種子

(割愛)

## ■ 親として生きること

(割愛)

## ■ 宇宙胎児

(割愛)

## ■ 身体と影

(割愛)

## ■ 聖霊と撤退する愛

(割愛)

## ■ ジャンケンと世界樹

(割愛)

## ■ 義人ノア

(割愛)



# 第9章

## 宗教と性

(性論)

### ■ ハイヌウェレ神話と子宮墓と「墮胎」

(割愛)

### ■ 聖

(割愛)

### ■ カデシュ

(割愛)

### ■ 聖と清

(割愛)

### ■ 苦行

(割愛)

### ■ 共食儀礼

(割愛)

## ■ 血の儀式

(割愛)

## ■ 血を飲むことの禁忌

(割愛)

## ■ 定住の呪い

(割愛)

## ■ 定住文化と非定住文化 - イザナギの冥府降り

(割愛)

## ■ 三種の神器 - 非定住文化による支配

(割愛)

## ■ 栽培民の前段階としての狩猟民文化と永遠の生

(割愛)

## ■ 男は労働

(割愛)

## ■ ゲノムに残る不平等のしるし

(割愛)

## ■ 近親相姦のタブー

(割愛)

## ■ 成人儀式

(割愛)

## ■ 成人と改宗

(割愛)

## ■ 「差別は許されない」はいけない

(割愛)

## ■ 売春と貨幣

(割愛)

## ■ 性病

(割愛)

## ■ 割礼

(割愛)

## ■ 女子割礼

(割愛)

## ■ 乳房

(割愛)

## ■ 生物学的な死と性

(割愛)

## ■ 臓器移植の意志

(割愛)

## ■ 処女信仰と国民軍

(割愛)

## ■ 夫婦愛と愛敵

(割愛)

## ■ 国を治めるにはまず家から治めよ？

(割愛)

## ■ ポルノと姦淫

(割愛)

## ■ 変成男子

(割愛)





# 第10章

## ハイパー・プラトニズム

(ハイプラ)

「死んだほうがマシ」を押し付けてくる国家自由主義的な「閉じられた社会」の中で、皆、とらわれた捕虜のように敵として生きる・生き残ることが「開かれた社会」にも生きるということなのではないかと私は考える。これを後述のようにハイパー・プラトニズムと名付けよう。

この思想は、2024年6月、イスラエル＝ハマス戦争の時代に、ベルクソン『[道徳と宗教の二つの源泉](#)』を読んでいくなかで練り上げられたものである。

### ■ 知性はどのように生じるか

(割愛)

### ■ 開かれた社会と閉じられた社会

(割愛)

### ■ 人類愛と閉じられた社会

(割愛)

### ■ ユダヤ教とイスラム教の自己犠牲

(割愛)

## ■ 死んだほうがマシを押し付ける社会

(割愛)

## ■ 捕虜のように敵として生きる

(割愛)

## ■ 開かれた社会の聖人のモデル

(割愛)

## ■ レミングスの行進

(割愛)

## ■ 閉じられた社会の自分の役割

(割愛)

## ■ 法人の自己降下

(割愛)

## ■ 機械革命

(割愛)

## ■ ハイパー・プラトニズム、スーパー・プラトニズム、ウルトラ・プラトニズム

(割愛)

## ■ 奴隷の定義とウォークマンを買う自由

(割愛)

## ■ 神秘主義

(割愛)

## ■ 狂気の突破力

(割愛)

## ■ 精神病あれこれ

(割愛)

## ■ 開かれた社会とエステル記

(割愛)

## ■ 狂気の突破力と知性の維持

(割愛)

## ■ 機械主義と法人の降下

(割愛)

## ■ 核兵器による平和

(割愛)

# 第11章

## 旧論 その1

(雑1)

ここから先の「旧論」といういくつかの章は、私がブログで書いてきたものをほぼそのままコピー＆ペーストしたものがほとんどである。ブログというと日記的なものを想像される方も多いかと思う。しかし、私は、ブログは常にそれ以前の「ホームページ」文化を受け継ぐ、まとまった思想をほとんど重複なく記事にして語る場として利用をはじめた。記事としてはほとんどが 10 年以上前のものだが、いくつか最近のものもある。

さて、私の大学院生時代の専門は、コンピュータを使った論理学だった。それが私の基礎にある。宗教学からは少し離れるが、私の考え方の基礎を知っていただくために、一般向けの論理的な雑考を選んで、この「旧論 その1」に書いていく。

### ■ メタ論理: 演繹と帰納

(割愛)

### ■ 不完全性定理: 「真」「偽」「わからない」

(割愛)

### ■ 真理の前には自由者も束縛される

(割愛)

## ■ 前提と仮説、相手にとっては同じもの

(割愛)

## ■ 絶対性

(割愛)

## ■ 嘘つきにつける薬

(割愛)

## ■ 信じるバカは恐ろしい

(割愛)

## ■ 知への愛

(割愛)

## ■ 時間の貨幣価値：「金で買えないモノはない」か？

(割愛)

## ■ 結果主義

(割愛)

## ■ コンピュータ定理証明における弁証法 - 私が作りたいシステム

(割愛)

## ■ オブジェクト指向高階論理

(割愛)





# 第12章

## 旧論 その2

(雑2)

ここでは、宗教学の概論的なブログ記事をまとめておく。

### ■ 宗教的判断の認容

(割愛)

### ■ 教義の内発性と外部の影響

(割愛)

### ■ 錬金術

(割愛)

### ■ 象徴の利用形態

(割愛)

### ■ パンとぶどう酒、それぞれの意味

(割愛)

## ■ イスラムと西欧(のキリスト教)の違い

(割愛)

## ■ トロッコ問題と小さな善

(割愛)

## ■ クーラーを讃美するホラ話

(割愛)

## ■ IT 革命と私 - 神学の忌避の向こう

(割愛)

# 第13章

## 旧論 その3

(雑3)

ここでは仏教に関して旧論を見ていく。私はブログの主な舞台を、《JRF のひとつこと》という即時性の高いブログのほうに移していく。ここでは繰り返しは忌避されず、脳がまるでシナプスをつなぐように、引用箇所を差し示しながら自己引用がなされる。仏教に関する議論は、《JRF のひとつこと》が主となる。しかし、ここでは《最後の審判を信じる者の浄土》以外は《JRF のひとつこと》に至る以前の論考を載せる。

あとこの章の《なぜ人を殺してはいけないのか》の記事は必ずしも仏教を受けた物ではないがここに抜粋を載せておく。この記事は、以前出した拙著『道を語り解く』からの(ほぼ)再録になる。

### ■ 仏教は無神論か

(割愛)

### ■ 四諦：仏教教義の提案的解釈

(割愛)

### ■ 仏教とキリスト教：教えの誠実さ

(割愛)

## ■ 最後の審判を信じる者の浄土

(割愛)

## ■ なぜ人を殺してはいけないのか - (抜粋)

(割愛)

# 第14章

## 旧論 その4

(雑4)

ここではキリスト教神学を扱う。私の宗教学の関心は、まずは、キリスト教神学への関心が主となった。その論理性に惹かれたのである。仏教にももちろん惹かれたが、それは自分の身近のことでもあり、無意識に後回しにしようとしたのかもしれない。北海道大学に通っていた時代に大学近くのキリスト教書店に何度か通った。私の人生いつキリスト教に転んでもおかしくなかったが、逆に知り過ぎた面があったのか、結局、転ばずに今まで過ごしている。

キリスト教神学ではないが、関連して《「結果」の平等、「機会」の平等》という論考もここに書いておこう。

### ■ 神の全知性

(割愛)

### ■ 自由意思と神の恩寵

(割愛)

### ■ 神の前での平等

(割愛)

## ■ 神は至善か、暴君か

(割愛)

## ■ 義認説と予定説

(割愛)

## ■ 「結果」の平等、「機会」の平等

(割愛)

## ■ 自由意志に関する 50代の私の考え方

(割愛)

# 第15章

## 旧論 その5

(雑5)

ここでは聖書の解釈として私の印象に強く残ったものを少し書き残す。この章の《ヤコブの一神教》は、以前出した電子書籍『道を語り解く』にも掲載したが、その再録となる。『道を語り解く』に掲載した《「ヨブ記」を読む》も再掲載しようか迷ったが、長くなるのでやめた。ぜひ『道を語り解く』もお求めいただきたい。聖書ではないが、ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』の《大審問官》の章に対する解釈もこの章に置いておく。

### ■ イエスはサタンか - 『新約聖書』ひろい読み

新約聖書には、共観福音書といって、「作者」が違うイエスの行状の記録が複数ある。そこには、ほぼ同じ内容のことが、作者ごとに少し変わって書かれている。今回挙げるのも、そのような部分で、『マルコによる福音書』では 3:20-30 の内容だが、『マタイによる福音書』では 12:22-31、『ルカによる福音書』では 11:14-23 に同様の部分である。「ベルゼブル論争」と題される部分だ。これを解釈しよう。

エルサレムから下って来た律法学者たちも、「あの男はベルゼブルに取りつかれている」と言い、また、「悪霊の頭の手で悪霊を追い出している」と言っていた。そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、たとえを用いて語られた。「どうして、サタンがサタンを追い出せよう。国が内輪で争えば、その国は成り立たない。家が内輪で争えば、その家は成り立たない。同じように、サタンが内輪もめして争えば、立ち行かず、滅びてしまう。また、まず強い人を縛り上げなければ、

だれも、その人の家に押し入って、家財道具を奪い取ることはできない。まず縛ってから、その家を略奪するものだ。はっきり言っておく。人の子らが犯す罪やどんな冒<sup>ぼう</sup>瀆<sup>とく</sup>の言葉も、すべて赦<sup>ゆる</sup>される。しかし、聖霊を冒<sup>ぼう</sup>瀆<sup>とく</sup>する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」(『マルコによる福音書』3:22-3:29)

ユダヤ教の神は決して奇跡で病気を治すような神ではなく、そのような「神」への信仰は、『列王記 下』1章にあるようなバアル・ゼブブへの信仰であり、それは、自分から苦難を起こし、その苦難を解決することで自分への信仰を篤<sup>あつ</sup>くしようとする「悪霊の頭」としての「神」への信仰であるというのが律法学者の主張である。

それに対するイエスの答えは、「サタンが滅びるためには、サタンが内輪もめして争う必要がある。サタンが力として示すものの正体を、自分達が捕まえていなければ、それはますます繁栄するだけである。たとえ、サタンをまねた行為が罪や冒<sup>ぼう</sup>瀆<sup>とく</sup>の言葉となろうとも、それが自らの聖霊からでた行為であるならば、それは赦されうる。」というものである。

本当にサタンとサタンが争っているならば、サタンは滅びるのかもしれない。しかし、サタンによって人と人が争っているならば、争い続けられるだけの余裕が、サタンの繁栄の余地を提供することになる。争うことがある意味、繁栄を導くのだ。

この解釈だと、イエスが自らサタンの所業を行っていることを認めていることになる。しかし、そう解釈することで、後に続く文意「外見的にサタンのような所業をしていても、聖霊によるものであれば赦されることもありうる(そうでないなら赦されないこともある)」が生きているのである。

この解釈は、他の方にとってはサタンのささやきのようなものかもしれないが、私にはもっとも穏当だと考えられるものである。私はこの解釈を抱いたまま、それ以外の少し違和感のある解釈を見てみたい。



「善と悪が永遠に争うのではなく、悪と悪が争って善になっていく」と主張しているという解釈も可能かもしれない。

クムラン教団(の一部)やミトラ教のような異端ではないかという問いを律法学者は出し、イエスはそれを「正義の力が悪の力を倒すわけでも、神が自分の栄光を示すために悪を作ったわけでもない」として退けているという解釈もできる。この場合、人に悪を倒す力を与えるのは神の恩恵であっても、神の恩恵そのものが悪を倒したわけではないことになる。悪を倒すのもまた悪であり善は争っていないということになるかもしれない。

もちろん、ここでイエスは、そのようなことを明確に否定していないので、このような解釈がありえないわけではない。

私はこの解釈は間違っているかもしれないと思うが、これを読んだ人の頭の中で、悪い解釈と悪い解釈を戦わせれば、より良い解釈に辿りつくかもしれない...ということだろう。

「神は悪霊の頭として悪霊を追い出すとしたら、悪霊から尊敬を失い、悪霊の頭でいつづけることはできない。だから、自分の使う神の力は悪霊の頭の力ではない」といっているのかもしれない。ただし、これは悪霊に自由意思を認めるモデルである。「悪霊の頭」や「悪霊」という神的存在が「神」とは別にいて、それが人を悪事に走らせたり病いを起こしているということだ。

この時代のユダヤ教は、悪をつくったのは神ではない(人か蛇?)という解釈が正統的だったのかもしれない。

私は「神の軍団」も「悪霊の軍団」も親しめない。だが、絵に描かれた天使をそのまま受け入れることができるならば、悪霊がすぐ真近にいる世界を絶望的な悲観を感じずに生きていけるのかもしれない。

悪霊とサタンに区別があり、例としてサタンがあげられているということは、サタンは現実的なもの(告発者など)を指しているという解釈もありえる。

イエスは悪霊についての(不毛な?)議論を避け、イエス自らも告発者なのに告発者どうして争うのは亡国的行為で、まずは協力して「強い人を縛り上げ」ようと述べているのかもしれない。

私はまず「議論を避けた」とは思えないのでこの解釈そのままを受け容れることはできないが、そういう意味をまったくこめてなかったとはいえないと感じる。しかし、当時の「サタン」の解釈が単に「告発者」という意味に留まったか、そのように律法学者たちが受けとれたかということ、そうではないように思う。

「悪霊の頭の力」を使っていることを否定していることから、迷信(悪)をもたないものに迷信(悪)を強要するべきではないとイエスが主張しているといった解釈も可能となるかもしれない。

ただし、人の持っている信念が迷信であるかどうかはわからないものである。これは「迷信をもつ者」はさらなる迷信の深みへと導くことを正当化し「迷信をもたないもの」を特別視するという点で、悪い選民思想のさきがけのように思える。

そもそもこの解釈は文章全体をまったくいかせていない。むしろ迷信をもたせるなど言いたがっているのは律法学者たちのように私は解釈している。

この解釈をなりたたせるのはイエスを「告発する」かのようにみえる律法学者たちをサタンのようにみなしたいという偏見があるからではないだろうか。

もちろんそのような偏見があると感じるのは私の偏見によるのだろう。だが、書かずにはおれなかった。

一つの家で悪と悪が争うとしたとき、「一つの家」を強調すると、これは教会の一致を求めることになる。ただし、一つの家を一人の人間ととらえれば、教会の意見の一致は必要ではなくなる。

なお教会一致の論拠となりうる次の部分...

これらのことを人々に思い起こさせ、言葉をあげつらわないようにと、神の御前で厳かに命じなさい。そのようなことは、何の役に  
も立たず、聞く者を破滅させるのです。(『テモテへの手紙2』2:14)

...は、特定の教義や説教時における一致と限定して解釈することもできるが、意見の相違を認めないという解釈も可能である。後者の解釈には、絶対的な真実を信じているはず人々の前で、真実に疑義を生じさせるのはマイナスであるという判断があるのだろう。私は、むしろ、解釈の自由がキリスト教を広める原動力になったと考えるので、この判断には賛成しない。

ちなみに、ベルゼブルは βεελζεβουλ で、バアル・ゼブブの誤記といわれる。ただし、bee が蜜蜂のことであれば、これはゾロアスターの神のことを言っているのかもしれない。ゾロアスター教では、知識を蜜にたとえ、賢者を蜜蜂にたとえていたからである。時代背景的にはバアルが問題というよりもゾロアスター教の亜種が流行していたので、それに掛けた意図的な誤記かもしれない。(注: もちろん、bee は英語で蜜蜂で、ギリシア語は違う。ここ自体が意図的な誤記である。)

## ■ たとえて説く理由 - 『新約聖書』 ひろい読み

(割愛)

## ■ 神殿とハト - 『新約聖書』 ひろい読み

(割愛)

## ■ 正教とロシア革命前夜 - 『カラマーゾフの兄弟』の《大審問官》を読んで

(割愛)

## ■ 知識の実 - 『創世記』 ひろい読み

(割愛)

## ■ ヤコブの一神教 - 『創世記』 ひろい読み

(割愛)

# 第16章

## 易双六

(易双六)

付録として、私が作った「易双六<sup>ようすこう</sup>」の紹介を、そのルールと共に載せておく。このゲームは、2011年11月に Web ブラウザ用ゲームとして作ったが、手でも行えるように設計している。2013年2月には Nintendo DSi や Nintendo 3DS というゲーム機の『プチコンmkII』上で動く『易双六PTC』も作った。

### ■ 概要

(割愛)

### ■ プレイ

#### ● 0. 準備するもの

- この説明書(慣れれば数表だけで良い。)、
- タロットカード(ライダー版準拠。逆位置あり。カードを重ねたとき番号が見やすいもの。)、
- トークン(プレイヤーを表すゲームの駒、なんでもよい。)、
- ソロバンなど(暗算できる方は必要ない。)、
- カードをスプレッドするためのクロスをしたテーブルなど。

タロットカードは別にライダー版準拠でなくてもよい。その場合、大アルカナの数値の割り当ては、そのカードのアルカナに近いものを選ぶなどするのがよい。例えば、ライダー版では (8) が力で (11) が正義だが、それが逆になっている場合は、カードの番号ではなくアルカナ

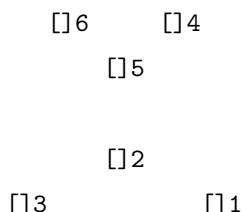
に関して数表から読む。上下対称で逆位置がない場合は、カードに印を付け正位置をわかるようにすればよい。カードの番号が読みにくければカードの端に番号を書けばよい。柔軟に。

## ● 1. 大アルカナで盤面を作る。

大アルカナと小アルカナを分け、それぞれを裏向きに山(talon)にしておく。

まず、大アルカナから (0)愚者 と (13)死神 を抜く。

次に、残り 20枚の大アルカナをまぜ、6枚を順に引き下のように並べる。



並べたあとタロットの歴史を記念し、(8)力 と (11)正義 の位置を入れ換える。どちらも山にあれば何もしなくて良いが、一方が山で、一方が場にあれば、山のものを正逆位置は変わらないよう場にとり出し、場のものを山に戻す。どちらも場にある場合は、変わる先の正逆位置に従って置き換える。

大アルカナの山はこの先使わない。

易に倣い、1,2,3,4,5,6 をそれぞれ初爻、二爻、三爻、四爻、五爻、上爻とも呼ぶ。また、1,2,3 をまとめて、下卦(または内卦)または下流と呼び、4,5,6 をまとめて上卦(または外卦)または上流と呼ぶ。

## ● 2. トークンを自由に置く。

トークンを自分の好きなように爻に置く。どの爻を開始位置とするか易の解釈などから選んでも良いし、ランダムに置いても良い。

置いた爻が上卦(4,5,6)の場合 (0)愚者 を、置いた爻が下卦(1,2,3)の場

合 (13)死神を、小アルカナの山にまぜ、シャッフルする。

残りの(13)死者か(0)愚者は、終了条件がわかりやすいように左に置く。

この後、小アルカナを一枚ずつ引いてプレイしていくが、先にまぜた大アルカナのカードが出てきたときが、ゲーム終了となる。

ただし、ゲームが短いと感じるなら、ゲームの前にあらかじめ、回数(3回ぐらい?)を決めておき、大アルカナのカードが出てくるごとに捨て札をまぜてシャッフルし、その回数だけ繰り返したあと終了としてもよい。

ゲーム終了時に、最初置いた爻が上卦(終了する大アルカナが(0)愚者)のときは、トークンが 5, 6 にあれば勝ちとなる。最初置いた爻が下卦(終了する大アルカナが(13)死神)のときは、トークンが 2, 5 にあれば勝ちとなる。

### ● 3. プレイの場

プレイ中、カードの配置は次のようにする。

```

      [[]]Sw
    []6      []4
      []5
  []X          [[]]D
      []2
    []3      []1
      [[]]Co
          [[]]T
  
```

- X は終了条件を表す (0)愚者 か (13)死神 のカード。
- Sw は上卦全体に関して貯まるソードのカード群。
- Co は下卦全体に関して貯まるコインのカード群。
- D は捨て札のカード群。
- T は小アルカナの山で、これは引きやすいように置けば良い。

また、上卦のそれぞれの爻にはコインのカード群が置かれ、下卦のそれぞれの爻にはカップのカード群が置かれることになる。

小アルカナの山以外のカード群はすべて表向き、捨て札以外のカード群は計算しやすいよう数値がわかるようにずらして重ね並べる。

#### ● 4. プレイの 1 ターン

爻を 1→2→3→4→5→6→1 と行くのを順方向、6→5→4→3→2→1→6 と行くのを逆方向と呼ぶ。

横方向(順方向か逆方向)に並び合う爻を比爻と呼び、縦に並び合う爻(1 と 4、2 と 5、3 と 6)を応爻と呼ぶ。

小アルカナのカードを一枚引く。これが大アルカナであれば、終了なのは上記の通り。そうでなければカードのスイートをまず見る。

大ざっぱに言うと、トークンが上卦(4,5,6)にあるとき、スイートがカップなら順方向に、ソードなら逆方向に、ワンドなら応爻に行き、コインならその位置に留まる。トークンが下卦(1,2,3)にあるとき、スイートがコインなら順方向に、ワンドなら逆方向に、ソードなら応爻に行き、カップならその位置に留まる。

その大アルカナの数表の指定のスイートに関する数字を参照するが、その数字は二つある。それぞれソードに関しては攻(ワンド)守(カップ)、コインに関しては苦(ワンド)喜(カップ)、カップに関しては上流(ソード)下流(コイン)、ワンドに関しては上流(ソード)下流(コイン)...を表す。大アルカナが逆位置の場合、それぞれのスイートに関しこの二つの数字を逆にする。

ただし細かい条件・カード操作があるのでそれを見ていく。なお、基本的には、プレイヤーは引いたカードに従うしかないが、トークンが下卦にあってソードのカードを引いたときのみ、プレイヤーの意思で選択できることがある。



## ■ トークンが上卦(4,5,6)にあるときのカードの動かし方

(割愛)

## ■ トークンが下卦(1,2,3)にあるときのカードの動かし方

(割愛)

## ■ (8)力 と (11)正義 の入れ換え

(割愛)

## ■ 実験的追加ルール: 戦乱置換

(割愛)

## ■ 経緯

(割愛)

## ■ Booth にグッズあり！

易双六のグッズを以下の Booth のおみせに置いている。ぜひのぞいて欲しい。The JRF Tarot の印刷用 PDF や易双六トークンの缶バッジが売っている。

《[ジルパのおみせ - BOOTH](https://j-rockford.booth.pm/)》

<https://j-rockford.booth.pm/>

## ■ 略式易双六

(割愛)

## ■ 大アルカナの数表

大アルカナの数表は次のようになる。数表は普通、数表の数を2倍にしたものを使うが、何倍にするかの元となる1倍の表も書いておく。ルール早見表も載せておく。

● 大アルカナ数表(× 1)

正位置 Upright	逆位置 Reversed
(0) 愚者 The Fool (使わない Not Use) ♠0/5 ♠5/5 ♥5♠5 ♠3♠5	(0 Inv.) 愚者 The Fool (使わない Not Use) ♠5♠3 ♥5♠5 ♠5/5 ♠5/0
(1) 魔術師 The Magician ♠3/3 ♠5/7 ♥0♠3 ♠7♠5	(1 Inv.) 魔術師 The Magician ♠5♠7 ♥3♠0 ♠7/5 ♠3/3
(2) 女教皇 The High Priestess ♠0/5 ♠7/3 ♥7♠5 ♠3♠3	(2 Inv.) 女教皇 The High Priestess ♠3♠3 ♥5♠7 ♠3/7 ♠5/0
(3) 女帝 The Empress ♠3/3 ♠0/3 ♥7♠5 ♠5♠7	(3 Inv.) 女帝 The Empress ♠7♠5 ♥5♠7 ♠3/0 ♠3/3
(4) 皇帝 The Emperor ♠3/3 ♠0/3 ♥5♠7 ♠7♠5	(4 Inv.) 皇帝 The Emperor ♠5♠7 ♥7♠5 ♠3/0 ♠3/3
(5) 法王 The Hierophant ♠5/0 ♠7/3 ♥3♠3 ♠7♠5	(5 Inv.) 法王 The Hierophant ♠5♠7 ♥3♠3 ♠3/7 ♠0/5
(6) 恋人 The Lovers ♠3/3 ♠5/3 ♥5♠7 ♠7♠0	(6 Inv.) 恋人 The Lovers ♠0♠7 ♥7♠5 ♠3/5 ♠3/3
(7) 戦車 The Chariot ♠7/7 ♠3/3 ♥0♠3 ♠5♠5	(7 Inv.) 戦車 The Chariot ♠5♠5 ♥3♠0 ♠3/3 ♠7/7
(8) 力 Strength ♠5/5 ♠0/3 ♥7♠7 ♠3♠3	(8 Inv.) 力 Strength ♠3♠3 ♥7♠7 ♠3/0 ♠5/5
(9) 隠者 The Hermit ♠0/7 ♠7/3 ♥3♠3 ♠5♠5	(9 Inv.) 隠者 The Hermit ♠5♠5 ♥3♠3 ♠3/7 ♠7/0
(10) 運命の輪 Wheel of Fortune ♠5/5 ♠5/5 ♥5♠5 ♠3♠0	(10 Inv.) 運命の輪 Wheel of Fortune ♠0♠3 ♥5♠5 ♠5/5 ♠5/5
(11) 正義 Justice ♠5/5 ♠5/5 ♥0♠3 ♠5♠5	(11 Inv.) 正義 Justice ♠5♠5 ♥3♠0 ♠5/5 ♠5/5
(12) 吊るされた男 The Hanged Man ♠3/5 ♠3/7 ♥3♠5 ♠0♠7	(12 Inv.) 吊るされた男 The Hanged Man ♠7♠0 ♥5♠3 ♠7/3 ♠5/3
(13) 死神 Death (使わない Not Use) ♠5/0 ♠5/5 ♥5♠3 ♠5♠5	(13 Inv.) 死神 Death (使わない Not Use) ♠5♠5 ♥3♠5 ♠5/5 ♠0/5
(14) 節制 Temperance ♠5/5 ♠7/3 ♥3♠7 ♠0♠3	(14 Inv.) 節制 Temperance ♠3♠0 ♥7♠3 ♠3/7 ♠5/5
(15) 悪魔 The Devil ♠5/3 ♠3/7 ♥5♠0 ♠3♠7	(15 Inv.) 悪魔 The Devil ♠7♠3 ♥0♠5 ♠7/3 ♠3/5
(16) 塔 The Tower ♠5/7 ♠5/3 ♥7♠0 ♠3♠3	(16 Inv.) 塔 The Tower ♠3♠3 ♥0♠7 ♠3/5 ♠7/5
(17) 星 The Star ♠5/3 ♠5/7 ♥3♠3 ♠7♠0	(17 Inv.) 星 The Star ♠0♠7 ♥3♠3 ♠7/5 ♠3/5
(18) 月 The Moon ♠3/7 ♠0/7 ♥5♠5 ♠3♠3	(18 Inv.) 月 The Moon ♠3♠3 ♥5♠5 ♠7/0 ♠7/3
(19) 太陽 The Sun ♠7/3 ♠0/7 ♥3♠3 ♠5♠5	(19 Inv.) 太陽 The Sun ♠5♠5 ♥3♠3 ♠7/0 ♠3/7
(20) 審判 Judgement ♠5/0 ♠7/3 ♥3♠5 ♠3♠7	(20 Inv.) 審判 Judgement ♠7♠3 ♥5♠3 ♠3/7 ♠0/5
(21) 世界 The World ♠0/5 ♠3/7 ♥7♠3 ♠3♠5	(21 Inv.) 世界 The World ♠5♠3 ♥3♠7 ♠7/3 ♠5/0

♠offence/deffence ♠pain|gain ♥upper♠lower ♠upper♠lower

## ● 大アルカナ数表(× 2)

正位置 Upright	逆位置 Reversed
(0) 愚者 The Fool (使わない Not Use) ♠0/10 ♠10 10 ♥10∞10 ♣6∞10	(0 Inv.) 愚者 The Fool (使わない Not Use) ♣10∞6 ♥10∞10 ♠10 10 ♠10/0
(1) 魔術師 The Magician ♠6/6 ♠10 14 ♥0∞6 ♣14∞10	(1 Inv.) 魔術師 The Magician ♣10∞14 ♥6∞0 ♠14 10 ♠6/6
(2) 女教皇 The High Priestess ♠0/10 ♠14 6 ♥14∞10 ♣6∞6	(2 Inv.) 女教皇 The High Priestess ♣6∞6 ♥10∞14 ♠6 14 ♠10/0
(3) 女帝 The Empress ♠6/6 ♠0 6 ♥14∞10 ♣10∞14	(3 Inv.) 女帝 The Empress ♣14∞10 ♥10∞14 ♠6 0 ♠6/6
(4) 皇帝 The Emperor ♠6/6 ♠0 6 ♥10∞14 ♣14∞10	(4 Inv.) 皇帝 The Emperor ♣10∞14 ♥14∞10 ♠6 0 ♠6/6
(5) 法王 The Hierophant ♠10/6 ♠14 6 ♥6∞6 ♣14∞10	(5 Inv.) 法王 The Hierophant ♣10∞14 ♥6∞6 ♠6 14 ♠0/10
(6) 恋人 The Lovers ♠6/6 ♠10 6 ♥10∞14 ♣14∞0	(6 Inv.) 恋人 The Lovers ♣0∞14 ♥14∞10 ♠6 10 ♠6/6
(7) 戦車 The Chariot ♠14/14 ♠0 6 ♥0∞6 ♣10∞10	(7 Inv.) 戦車 The Chariot ♣10∞10 ♥6∞0 ♠6 6 ♠14/14
(8) 力 Strength ♠10/10 ♠0 6 ♥14∞14 ♣6∞6	(8 Inv.) 力 Strength ♣6∞6 ♥14∞14 ♠6 0 ♠10/10
(9) 隠者 The Hermit ♠10/14 ♠14 6 ♥6∞6 ♣10∞10	(9 Inv.) 隠者 The Hermit ♣10∞10 ♥6∞6 ♠6 14 ♠14/0
(10) 運命の輪 Wheel of Fortune ♠10/10 ♠10 10 ♥10∞10 ♣6∞0	(10 Inv.) 運命の輪 Wheel of Fortune ♣0∞6 ♥10∞10 ♠10 10 ♠10/10
(11) 正義 Justice ♠10/10 ♠10 10 ♥0∞6 ♣10∞10	(11 Inv.) 正義 Justice ♣10∞10 ♥6∞0 ♠10 10 ♠10/10
(12) 吊るされた男 The Hanged Man ♠6/10 ♠6 14 ♥6∞10 ♣0∞14	(12 Inv.) 吊るされた男 The Hanged Man ♣14∞0 ♥10∞6 ♠14 6 ♠10/6
(13) 死神 Death (使わない Not Use) ♠10/0 ♠10 10 ♥10∞6 ♣10∞10	(13 Inv.) 死神 Death (使わない Not Use) ♣10∞10 ♥6∞10 ♠10 10 ♠0/10
(14) 節制 Temperance ♠10/10 ♠14 6 ♥6∞14 ♣0∞6	(14 Inv.) 節制 Temperance ♣6∞0 ♥14∞6 ♠6 14 ♠10/10
(15) 悪魔 The Devil ♠10/6 ♠6 14 ♥10∞0 ♣6∞14	(15 Inv.) 悪魔 The Devil ♣14∞6 ♥0∞10 ♠14 6 ♠6/10
(16) 塔 The Tower ♠10/14 ♠10 6 ♥14∞0 ♣6∞6	(16 Inv.) 塔 The Tower ♣6∞6 ♥0∞14 ♠6 10 ♠14/10
(17) 星 The Star ♠10/6 ♠10 14 ♥6∞6 ♣14∞0	(17 Inv.) 星 The Star ♣0∞14 ♥6∞6 ♠14 10 ♠6/10
(18) 月 The Moon ♠6/14 ♠0 14 ♥10∞10 ♣6∞6	(18 Inv.) 月 The Moon ♣6∞6 ♥10∞10 ♠14 0 ♠14/6
(19) 太陽 The Sun ♠14/6 ♠0 14 ♥6∞6 ♣10∞10	(19 Inv.) 太陽 The Sun ♣10∞10 ♥6∞6 ♠14 0 ♠6/14
(20) 審判 Judgement ♠10/0 ♠14 6 ♥6∞10 ♣6∞14	(20 Inv.) 審判 Judgement ♣14∞6 ♥10∞6 ♠6 14 ♠0/10
(21) 世界 The World ♠10/10 ♠6 14 ♥14∞6 ♣6∞10	(21 Inv.) 世界 The World ♣10∞6 ♥6∞14 ♠14 6 ♠10/0

♠offence/deffence ♠pain|gain ♥upper∞lower ♣upper∞lower

## ● ルール早見表

♠offence/deffence ♠pain|gain ♥upper⇄lower ♠upper⇄lower

上卦 Upper Trigram	
↑♠: $\text{Max}(@\spadesuit) + (\rightarrow A)[/\spadesuit\text{defence}] > \$\spadesuit + (\rightarrow A)[\spadesuit/\text{pain}]$	
Move→: $\$ \spadesuit \Rightarrow (\uparrow \spadesuit)$	Stay: $\$ \spadesuit \Rightarrow \times, \text{Max}(@\spadesuit) \Rightarrow (\leftarrow \spadesuit)$
↑♥: Stay.	Stay: $\$ \heartsuit \Rightarrow (@\heartsuit)$
↑♥: $\$ \heartsuit + (@A)[\heartsuit/\text{upper}] > (\leftarrow A)[\spadesuit/\text{upper}]$	
Move←: $\$ \heartsuit \Rightarrow (\downarrow \heartsuit)$	Stay: $\$ \heartsuit \Rightarrow (\downarrow \heartsuit)$
↑♠: $\$ \spadesuit + (@A)[\spadesuit/\text{upper}] + \text{Max}(\downarrow \heartsuit!(\text{need})) + (\downarrow A)[/\heartsuit\text{lower}] > \text{Sum}(@\spadesuit) + (@A)[/\spadesuit\text{gain}]$	
Move↓: $\$ \spadesuit \Rightarrow \times, \text{Max}(\downarrow \heartsuit) \Rightarrow \times$	Stay: $\$ \spadesuit \Rightarrow \times, \text{Max}(@\spadesuit) \Rightarrow (\downarrow \spadesuit)$
下卦 Lower Trigram	
↓♠: $\$ \spadesuit + (@A)[\spadesuit/\text{offence}] + \text{Sum}(\downarrow \spadesuit) > (\uparrow A)[/\spadesuit\text{defence}] + \text{Sum}(\uparrow \spadesuit) + \text{Sum}(\uparrow \spadesuit)$	
Move↑: $\text{Sum}(\downarrow \spadesuit) \Rightarrow \times, \text{Sum}(\uparrow \spadesuit) \Rightarrow \times, \$ \spadesuit \Rightarrow (\uparrow \spadesuit)$	
Stay: (chose) $\text{Sum}(@\heartsuit) \Rightarrow \times, \$ \spadesuit \Rightarrow \times$	(obliged) $\text{Max}(@\heartsuit) \Rightarrow \times, \$ \spadesuit \Rightarrow \times$
↓♠: $\$ \spadesuit + (@A)[\spadesuit/\text{pain}] > (\leftarrow A)[/\spadesuit\text{gain}]$	
Move←: $\$ \spadesuit \Rightarrow (\uparrow \spadesuit)$	Stay: $\$ \spadesuit \Rightarrow (\downarrow \spadesuit)$
↓♥: Stay.	Stay: $\$ \heartsuit \Rightarrow (@\heartsuit)$
↓♠: $\$ \spadesuit + (@A)[/\spadesuit\text{lower}] > \text{Suitable}(@\heartsuit!(\text{need})) + (\rightarrow A)[/\heartsuit\text{lower}]$	
Move→: $\$ \spadesuit \Rightarrow \times, \text{Min}(\text{Suitable}(@\heartsuit)) \Rightarrow \times$	Stay: $\$ \spadesuit \Rightarrow \times$



# 第17章

## 医術と奇跡

(医術論)

医療諺言<sup>げんげん</sup>「知っている者は知っている者にあらわすことを許されるが、知っている者が知らない者に明かすことは許されない」は、メソポタミア時代より以前からあるそうだが、私は医学者ではないところから、文献を読んで推測することしかしていないので、私が明かすところは許されるだろうと考え、書いていく。

### ■ 黄帝異聞

(割愛)

### ■ A薬B薬

(割愛)

### ■ 毒と欠乏

(割愛)

### ■ 外科・外卦

(割愛)

## ■ ガレノス

(割愛)

## ■ ガネーシャ

(割愛)

## ■ 漢方薬

(割愛)

## ■ ホメオパシー・ヘテロパシー・アロパシー

(割愛)

## ■ 共感魔術

(割愛)

## ■ 薬と奇跡

(割愛)

## ■ 医術と占術

(割愛)



## ■ 転地療養

(割愛)

## ■ 要訓練薬効

「要訓練薬効」というものはありうる。

昔は日本にもいたのだが、インドのヨガの達人の中には、胃にあるものを出したりひっこめたりできるような人々がいる。普通人も唾液は意識的にもコントロールができる。口中の唾液の多寡で胃での溶けやすさが変わる薬があれば、少なくともそれに関して薬効を意識でコントロールできるという話になる。さらに達人ともなれば、それ以外の分泌液等をコントロールして、普通の人より多くの種類の薬のコントロールができる...そういうふうにくつか薬を用意する...ようなことは可能。そこまでは言えるはずだ。《A薬B薬》を患者が意識的に切り換えるようなものはここでは除いて考えよう。

このあたり、唾液でコントロールできるものとはすなわち「食べ物」なわけで、中華の医食同源的な話の域を出ていないかもしれないが、一方、内分泌液のコントロールまでいくと、インドの苦行にもつながる話なのかもしれない。ロシアの怪僧ラスプーチンの胃が無酸で青酸カリが効かなかったという逸話は、この視点に立つと、ラスプーチンが生きていた当時も、内分泌液のコントロールが問題になっていたことを実は意味しているのではないか。

一方、脳が治療に専念できるのは一箇所がせいぜいではないかという疑いも私にはある。歯の治療の際、一つの歯が終わったあと、急に他の歯が痛み出すといったことは他の方にもあるのではないか。

脳を経たフィードバックにより体を治すのは実は難しいことで、死にかかるような大ケガの場合、脳に頼らないといけないという状態にするのはとてもマズいというのもあると思う。意志に頼れない副交感

神経が優位なときにも治療効果がないといけない。自分で治療する...自分の意識的作用によって治療するよりは、「医者」など場合によっては複数同時に外部から診る者を通して治せるようなあり方のほうが身体にとってはいいのかもしれない。

それにもかかわらず、ある意味、身体部位の部分意識みたいなのを顕在化...いわゆる「憑依」...して、そこの要求を脳が受けとるようにした場合、本来先に意識化すべきところに十分な注意がいかなかったり、要求が多くなり過ぎて脳がうまく処理できず、結果的に身体の治癒が遅れたり、身体を守るための注意力がなくなったりするようなことはないのだろうか？ それは統合失調症的症状に似ているかもしれない。

近代から現代にかけて、要訓練薬効を追おうとした西洋医学医師が、こういった「意識化のワナ」にはまって、統合失調症的症状の患者をかかえるようになったようなことがあり、このあたりの追及がタブーになってる面がある...というのは妄想が過ぎるだろうか？

ただ、未来においては、意志のない状態でコンピュータにサポートしてもらうことで訓練の成果が出せるようなこともありうる。要訓練薬効が意義あるものとして注目されることもあるのかもしれない。

要訓練「奇跡」を身につけることも可能なのかもしれない。ウィルスなどには潜伏期間があるように、病として症状が出なくても共生というか勝手に住んでるようなのがいるのは、普通のことである。それが他人にうつって他人には症状が出るようなのは稀かもしれないが、肝炎ウィルス等ではそういった可能性があるという前提での議論があった記憶もある。新陳代謝をよくして体に「何か」を飼うイメージだ。それが、トキシプラズマがドーパミンを増やすように、人のある意味明るく幸せにするようなことはあるのだろう。

テレキネシスやサイコキネシスといった超能力はほぼないと言えそうだが、超能力的な嗅覚など超感覚は存在しうる。例えば、イギリスには、嗅覚でパーキンソン病を見分けられる女性ジョイ・ミルンさんが

いた。

瀉血はかつては広く医療行為として行われていたが、最近ではその効用を否定され、なされなくなったとされている。しかし、血液検査は、いってみれば瀉血と同様のことをしている。血液検査自体に治療の意味はないが、医療に大きな影響をおよぼす。瀉血も、それが想像されたような秩序ではなかったが、超嗅覚などを通じて意識的にか無意識的にか訓練され、治療や看護につながる意味を持っていたのかもしれない。少なくとも、瀉血をしていれば、急な戦争において、治療すべき男性の血を見て気絶するようなことはなくなっただろう。

## ■ 富裕層と難病

(割愛)

## ■ 生殖

(割愛)



# あとがき

私の宗教的立場は、キリストの復活を信じる仏教徒のようなものです。組織に属し布施で支えるわけではないという点で最悪のシンクレティスト。迷いがあって宗派に属さぬまま、しかし宗教のために働く、僧侶にはなりたくてもなれぬ、寺男(寺の用務員さん)のような者。ただ天職としては特殊な易「易双六」を奉じる「易者」なのかな。...という自己認識です。

長く宗教に興味を持ち、「宗教と動機付け」というブログを書きはじめ、その舞台を「JRF のひとこと」というブログに移し、10年以上続けてきました。「はじめに」でもチラと書きましたが、それをまとめたのがこの本になります。

少しでも社会に役立つような本にしたかったのですが、そうなったかどうかの判断は、読者の皆様にゆだねます。ここまで読んでいただきありがとうございます。

チャット生成 AI である Google Gemini (旧: Bard) にお世話になりました。Gemini さんとの会話を明示的に引用した部分もありますが、多くの場合は、会話を消化して活かしています。

Wikipedia をはじめ数多くのネットの記事にもお世話になりました。参考文献に挙げたのは、そのうちわずかなものです。

本は長い間かけていろいろ読んできました。ただ、論文を読むことはほとんどありません。本を読んでブログ等でメモしたものが今回の主要な部分となっています。ただ、やはり参考文献に挙げたのは、そのうちわずかなものです。

死んだ父が遺してくれたもので主に生活しています。年老いた母が生活の面倒のほぼすべてを見てくれています。社会に寄りかかって比較的良い生活しています。この本を書き上げられたことを、また、日々の生活を、親に社会に全てに感謝します。ありがとうございました。

# 参考文献

## ● 宗教学

『世界宗教史 - 全8巻』(ミルチア・エリアーデ 原案, 奥山 倫明 & 木塚 隆志 & 深澤 英隆 訳, ちくま学芸文庫, 2000年, [Amazon](#)(1巻), [7net](#)(1巻))

『宗教生活の原初形態 - 全2巻』(エミル・デュルケム 著, 古野 清人 訳, 岩波文庫 白214-1・2, 1941年7月・1942年2月, [Amazon](#)(上巻), [7net](#)(上巻), [Amazon](#)(下巻), [7net](#)(下巻))

『日本神話の源流』(吉田 敦彦 著, 講談社学術文庫, 2007年5月, [Amazon](#), [7net](#))

『殺された女神 - 人類学ゼミナール 2』(Ad. E. イエンゼン 著, 大林 太良 & 牛島 徹 & 樋口 大介 訳, 弘文堂, 1977年5月, [Amazon](#), [7net](#))

『宗教の起源 - 私たちにはなぜ〈神〉が必要だったのか』(ロビン・ダンバー 著, 小田 哲 訳, 白揚社, 2023年10月, [Amazon](#), [7net](#))

『宗教的経験の諸相 - 全2巻』(ウィリアム・ジェイムズ 著, 梶田 啓三 訳, 岩波文庫 青, 1969年10月・1970年2月, [Amazon](#)(上巻), [7net](#)(上巻), [Amazon](#)(下巻), [7net](#)(下巻))

『万物の黎明 - 人類史を根本からくつがえす』(デヴィッド・グレーバー & デヴィッド・ウェングロウ 著, 酒井 隆史 訳, 光文社, 2023年9月, [Amazon](#), [7net](#))

『イスラム - 思想と歴史』(中村 廣治郎 著, 東京大学出版会, 1977年1月,

[Amazon](#), [7net](#)(新装版))

## ● 歴史

『歴史 - 全3巻』(ヘロドトス 著, 松平 千秋 訳, 岩波文庫, 1971年, [Amazon](#)(上巻), [7net](#))

『銃・病原菌・鉄 - 1万3000年にわたる人類史の謎 (上・下)』(ジャレド・ダイアモンド 著, 倉骨 彰 訳, 草思社, 2000年, [Amazon](#)(文庫本 上巻), [7net](#)(文庫本 上巻))

『古代文明の謎はどこまで解けたか - 全3巻』(ピーター・ジェイムズ & ニック・ソープ 著, 皆神 龍太郎 監修, 福岡 洋一 訳, 太田出版, 2002年-2004年, [Amazon](#)(I巻), [7net](#)(I巻))

《パンの為じゃなくビールの為？古代に農業が発達したのはビールが飲みたかったからという研究結果（米研究）：カラパイア》

<https://karapaia.com/archives/52265023.html>

## ● キリスト教・ユダヤ教

『聖書 新共同訳 - 旧約聖書 旧約聖書続編つき』(共同訳聖書実行委員会 著, 日本聖書協会, 1987-1988年, [Amazon](#)(ジッパーつき・ミニ判黒), [7net](#)(クロス装厚表紙))

『新約聖書 - 新共同訳』(共同訳聖書実行委員会 訳, 日本聖書協会, 1987-1988年, [Amazon](#), [7net](#)(詩篇付き))

『THE TANACH - THE ARTSCROLL SERIES\* / STONE EDITION』(MESORAH PUBLICATIONS, Ltd., 1996, [Amazon](#))

『新約聖書略解 - 新共同訳』(山内 真 監修, 日本基督教団出版局, 2000年4月, [Amazon](#), [7net](#))



『旧約聖書略解 - 新共同訳』(木田 献一 監修, 日本基督教団出版局, 2001年4月, [Amazon](#), [7net](#))

『宗教改革の思想』(アリスター・E・マクグラス 著, 高柳 俊一 訳, 教文館, 2000年10月, [Amazon](#), [7net](#))

『ギリシャ正教』(高橋 保行 著, 講談社学術文庫, 1980年7月, [Amazon](#), [7net](#))

『エックハルト説教集』(エックハルト 著, 田島 照久 訳, 岩波文庫 青 816-1, 1990年6月, [Amazon](#), [7net](#))

『神学の思考 - キリスト教とは何か』(佐藤 優 著, 平凡社, 2015年1月, [Amazon](#), [7net](#))

『神学の技法 - キリスト教は役に立つ』(佐藤 優 著, 平凡社, 2018年5月, [Amazon](#), [7net](#))

『他者と死者 - ラカンによるレヴィナス』(内田 樹 著, 文春文庫, 2011年9月, [Amazon](#), [7net](#))

『困難な自由』(エマニュエル・レヴィナス 著, 内田 樹 訳, 国文社, 1985年9月, [Amazon](#), [7net](#))

『The Guide For The Perplexed』(Moses Maimonides 著, M. Friedländer 訳, Dover, 1956年, [Amazon](#), [Amazon](#))

『カラマーゾフの兄弟 - (I)』(ドストエフスキー 著, 原卓也 訳, 新潮社 ドストエフスキー全集 15, 1978年11月, [Amazon](#))

## ● 西洋哲学

『エチカ - 倫理学 全2巻』(スピノザ 著, 畠中 尚志 訳, 岩波文庫 青 615-4・5, 1951年9月・10月, [Amazon](#)(上巻), [7net](#)(上巻), [Amazon](#)(下巻), [7net](#)(下巻))

『宗教哲学講義』(ヘーゲル 著, 山崎 純 訳, 講談社学術文庫 2749, 2023年1月, [Amazon](#), [7net](#))

『怒りについて 他一篇』(セネカ 著, 茂手木 元蔵 訳, 岩波文庫 青 607-2, 1980年12月, [Amazon](#), [7net](#))

『支配について - 全2巻』(マックス・ウェーバー 著, 野口 雅弘 訳, 岩波文庫 白 210-1・2, 2023年12月・2024年1月, [Amazon\(I\)](#), [7net\(I\)](#), [Amazon\(II\)](#), [7net\(II\)](#))

『神学・政治論 - 聖書の批判と言論の自由 全二巻』(スピノザ 著, 畠中 尚志 訳, 岩波文庫 青 615-1・2, 1944年6月, [Amazon\(上巻\)](#), [7net\(上巻\)](#), [Amazon\(下巻\)](#), [7net\(下巻\)](#))

『省察』(ルネ・デカルト 著, 山田 弘明 訳, ちくま学芸文庫 テ 6-1, 2006年3月, [Amazon](#), [7net](#))

『はじめての構造主義』(橋爪 大三郎 著, 講談社現代新書 0898, 1988年, [Amazon](#), [7net](#))

『道徳と宗教の二つの源泉』(アンリ・ベルクソン 著, 合田 正人 & 小野 浩 太郎 訳, ちくま学芸文庫, 2015年8月, [Amazon](#), [7net](#))

『開かれた社会とその敵 - 全4冊』(カール・ポパー 著, 小河原 誠 訳, 岩波文庫 青, 2023年2月-10月, [Amazon\(第1巻上\)](#), [Amazon\(第1巻下\)](#), [Amazon\(第2巻上\)](#), [Amazon\(第2巻下\)](#))

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(マックス・ウェーバー 著, 大塚 久雄 訳, 岩波文庫 白 209-3, 1989年1月, [Amazon](#), [7net](#))

## ● 仏教・インド哲学

『今を生きるための仏教 100 話』(植木 雅俊 著, 平凡社新書, 2019年, [Amazon](#), [7net](#))

『仏典のことば - さとりへの十二講』(田上 太秀 著, 講談社学術文庫, 2010年, [Amazon](#), [7net](#))

『ブッダの最期のことば』(田上 太秀 著, NHK 出版, 2013年, [Amazon](#), [7net](#))

『密教経典』(宮坂 有勝 訳注, 講談社学術文庫 2062, 2011年, [Amazon](#), [7net](#))

『仏陀のいいなかったこと』(田上 太秀 著, 講談社学術文庫 1422, 2000年, [Amazon](#), [7net](#))

『大乘仏教の誕生 - 「さとり」と「廻向」』(梶山 雄一 著, 講談社学術文庫 2672, 2021年6月, [Amazon](#), [7net](#))

『善財童子の旅 - 〔現代語訳〕華嚴経「入法界品」』(大角 修 著, 春秋社, 2014年6月, [Amazon](#), [7net](#))

『大日経・金剛頂経 - 全品現代語訳』(大角修 訳, 角川ソフィア文庫, 2019年10月, [Amazon](#), [7net](#))

『シッダルタ』(ヘルマン・ヘッセ 著, 手塚 富雄 訳, 岩波文庫 赤 435-6, 2011年8月, [Amazon](#), [7net](#))

『ヒンドゥー教の本 - Books Esoterica 12 インド神話が語る宇宙的覚醒への道』(学研, 1995年5月, [Amazon](#), [7net](#))

『最澄と徳一 - 仏教史上最大の対決』(師 茂樹 著, 岩波新書 新赤版 1899, 2021年10月, [Amazon](#), [7net](#))

『華嚴経入門』(木村 清孝 著, 角川ソフィア文庫, 2015年1月, [Amazon](#), [7net](#))

『華嚴の思想』(鎌田 茂雄 著, 講談社学術文庫 827, 1988年5月, [Amazon](#), [7net](#))

『インド哲学入門』(ロイ・W・ペレット 著, 加藤 隆宏 訳, ミネルヴァ書房, 2023年9月, [Amazon](#), [7net](#))

『維摩経・勝鬘経 - 全文現代語訳』(大角 修 訳, 角川ソフィア文庫, 2022年3月, [Amazon](#), [7net](#))

『ブッダ最後の旅 - 大パリニッバーナ経』(中村 元 訳, 岩波文庫 青, 1980年・2010年改版, [Amazon](#), [7net](#))

《DJ プラパンチャ:X:2023-10-04 - 密教では女性が悟っていた話》  
[https://twitter.com/prapanca\\_snares/status/1709467891584901294](https://twitter.com/prapanca_snares/status/1709467891584901294)

《修証義を読む (4) - メタバースをかける僧侶》  
<https://note.com/shounji665/n/n31fb3b9b8569>

《damepon:Twitter:2022-02-17 - 照于一隅此則国宝》  
[https://twitter.com/damepon\\_x/status/1494188084594118656](https://twitter.com/damepon_x/status/1494188084594118656)

《一隅を照らす人、千里を照らす人 - 井上宏》  
<https://www.singakumeiseisha.com/kikou/121227itiguu-wo-terasu-nituite/121227itiguu-wo-terasu-nituite.htm>

## ● 易

『易経 - 全2巻』(高田 真治 & 後藤 基巳 訳, 岩波文庫, 1969年, [Amazon](#)(上巻), [7net](#))

『易のはなし』(高田 淳 著, 岩波新書, 1988年6月, [Amazon](#), [7net](#))

『易学 - 成立と展開』(本田 濟 著, 講談社学術文庫 2683, 2021年9月, [Amazon](#), [7net](#))

『易の話』(金谷 治 著, 講談社学術文庫 1616, 2003年, [Amazon](#), [7net](#))

『易経入門 - 運命を拓く人間学』(竹本 昂仙 著, PHP 研究所, 1989年, [Amazon](#), [7net](#))

## ● 中国思想 (易以外)

『論語』(金谷 治 訳注, 岩波文庫, 1999年, [Amazon](#), [7net](#))

『書経 - ビギナーズ・クラシックス 中国の古典 (抄訳)』(山口謠司 訳注, 角川ソフィア文庫, 2019年3月, [Amazon](#), [7net](#))

『荀子 - 全二冊』(金谷 治 訳注, 岩波文庫, 1961年-1962年, [Amazon](#), [7net](#))

『孟子 - 全二冊』(小林 勝人 訳注, 岩波文庫, 1968年-1972年, [Amazon](#)(上巻), [7net](#)(上巻))

『莊子 - 全四冊』(金谷 治 訳注, 岩波文庫, 1971年-1983年, [Amazon](#), [7net](#))

『孔子伝』(白川 静 著, 中公文庫, 1972年初出, 1991年文庫版, [Amazon](#), [7net](#))

『墨子』(森 三樹三郎 訳, ちくま学芸文庫, 2012年, [Amazon](#), [7net](#))

『韓非子 - 全四冊』(金谷 治 訳注, 岩波文庫, 1994年, [Amazon](#), [7net](#))

『大学・中庸』(金谷 治 訳注, 岩波文庫, 1998年, [Amazon](#), [7net](#))

『黄帝内経運氣 - 古代中国の気象医学とバイオリズム』(李 建章 編, 身心の古典翻訳同人 訳, ベースボール・マガジン社, 1997年, [Amazon](#), [7net](#))

## ● 進化論

『利己的な遺伝子 - 増補改題「生物＝生存機械論」』(リチャード・ドーキンス 著, 日高 敏隆 & 岸 由二 & 羽田 節子 & 垂水 雄二 訳, 紀伊國屋書店, 1991年, [Amazon](#), [7net](#))

『赤の女王 - 性とヒトの進化』(マット・リドレー 著, 長谷川 眞理子 訳,

ハヤカワ文庫 NF 418, 2014年10月, [Amazon](#), [7net](#))

『遺伝子と運命』(ピーター・リトル, 美宅 成樹 訳, ブルーバックス, 2004年, [Amazon](#), [7net](#))

『新版・図説 種の起源』(チャールズ・ダーウィン 著, リヤード・リーキー 編, 吉岡 晶子 訳, 東京書籍, 1997年, [Amazon](#), [7net](#))

『分子進化の中立説』(木村 資生, 紀伊國屋書店, 1986年, [Amazon](#), [7net](#))

## ● 生物学・考古学

『人類の起源 - 古代DNAが語るホモ・サピエンスの「大いなる旅」』(篠田 謙一 著, 中公新書 2683, 2022年2月, [Amazon](#), [7net](#))

『親指はなぜ太いのか - 直立二足歩行の起原に迫る』(島 泰三 著, 中公新書 1709, 2003年8月, [Amazon](#), [7net](#))

『交雑する人類 - 古代DNAが解き明かす新サピエンス史』(デイヴィッド・ライク 著, 日向 やよい 訳, NHK出版, 2018年7月, [Amazon](#), [7net](#))

『事典 古代の発明 - 文化 生活 技術』(ピーター・ジェイムズ & ニック・ソープ 著, 矢島 文夫 監訳, 東洋書林, 2005年12月, [Amazon](#), [7net](#))

## ● 物理学

『エレガントな宇宙 - 超ひも理論がすべてを解明する』(ブライアン・グリーン 著, 林 一 & 林 大 訳, 草思社, 2001年, [Amazon](#), [7net](#))

『ブラックホール戦争 - スティーブン・ホーキングとの20年越しの闘い』(レオナルド・サスキンド 著, 林田 陽子 訳, 日経 BP 社, 2009年10月, [Amazon](#), [7net](#))

『NHKスペシャル 宇宙 未知への大紀行 3 百億個の太陽』(NHK「宇宙プロジェクト」編, NHK 出版, 2001年10月, [Amazon](#))

《現実を説明するには虚数が必要であることが最新の研究で示される - GIGAZINE》

<https://gigazine.net/news/20211222-imaginary-numbers-need-describe-reality/>

## ● 科学哲学

『意味と目的の世界 - 生物の哲学から』(ルース・ミリカン 著, 信原 幸弘 訳, 勁草書房 ジャン・ニコ講義セレクション 1, 2007年1月, [Amazon](#), [7net](#))

『多宇宙と輪廻転生 - 人間原理のパラドクス』(三浦 俊彦 著, 青土社, 2007年, [Amazon](#), [7net](#))

『ゼロからの論証』(三浦 俊彦 著, 青土社, 2006年7月, [Amazon](#), [7net](#))

『ホロン革命』(アーサー・ケストラー 著, 田中 三彦 & 吉岡佳子 訳, 工作舎, 1983年, [Amazon](#), [7net](#))

『モンティ・ホール問題 - テレビ番組から生まれた史上最も議論を呼んだ確率問題の紹介と解説』(ジェイソン・ローゼンハウス 著, 松浦俊輔 訳, 青土社, 2013年12月, [Amazon](#), [7net](#))

《Doomsday Argument - 忘却からの帰還》

<http://seesaawiki.jp/transact/d/Doomsday%20Argument>

《シミュレーション・アーギュメントとオメガポイントについて - 忘却からの帰還》

<http://transact.seesaa.net/article/24590167.html>

《宇宙で生命はいかにして誕生したのか? - GIGAZINE》

<https://gigazine.net/news/20231011-ancient-life-old-universe/>

## ● 医学

『わたしを離さないで』(カズオ・イシグロ 著, 土屋 政雄 訳, ハヤカワ epi 文庫, 2008年, [Amazon](#), [7net](#))

『脳の大統一理論 - 自由エネルギー原理とはなにか』(乾 敏郎 & 阪口 豊 著, 岩波科学ライブラリー 299, 2020年12月, [Amazon](#), [7net](#))

『ガレノス - 西洋医学を支配したローマ帝国の医師』(スーザン・P・マターソン 著, 澤井 直 訳, 白水社, 2017年, [Amazon](#), [7net](#))

《Adams, et al., 2013 - The Computational Anatomy of Psychosis - Frontiers in Psychiatry》

<https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fpsyt.2013.00047/full>

《偽の薬だと知りながら服用しても効果があるのはなぜか | ナショナルジオグラフィック日本版サイト》

<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/22/062900292/>

《1万年前から行われてきた、頭に穴を開ける穿頭術の謎 | ニュース | Discovery Japan ディスカバリージャパン/ディスカバリーチャンネル》

[https://www.discoveryjapan.jp/news/0suu\\_3s6f/](https://www.discoveryjapan.jp/news/0suu_3s6f/)

《においてパーキンソン病を見分けられる女性の告白で難病研究が一気に進む可能性 - GIGAZINE》

<https://gigazine.net/news/20151025-parkinson-disease-smell/>

## ● その他

『信長と弥助 - 本能寺を生き延びた黒人侍』(トーマス・ロックリー 著, 不二 淑子 訳, 太田出版, 2017年1月, [Amazon](#), [7net](#))

『大航海時代の日本人奴隷 - 増補新版』(ルシオ・デ・ソウザ & 岡 美穂



子 著, 中公選書 116, 2021年1月, [Amazon](#), [7net](#))

『政治学史』(福田 歓一 著, 東京大学出版会, 1985年1月, [Amazon](#), [7net](#))

『帳簿の世界史』(ジョイコブ・ソール 著, 村井 章子 訳, 文春文庫, 2018年, [Amazon](#), [7net](#))

『ミス・マナーズのほんとうのマナー』(ジュディス・マーティン 著, 片岡 しのぶ & 金 利光 訳, 暮らしの手帖社, 1991年, [Amazon](#), [7net](#))

『ものぐさ精神分析』(岸田 秀 著, 中公文庫, 1982年, [Amazon](#), [7net](#)(EPUB 3.0))

『近代の政治思想 - その現実的・理論的諸前提』(福田 歓一 著, 岩波新書 青版 A2, 1970年, [Amazon](#), [7net](#))

『1984年』(ジョージ・オーウェル 著, 高橋和久 訳, ハヤカワepi文庫, 2009年7月, [Amazon](#), [7net](#))

『ルービン回顧録』(ロバート・E・ルービン & ジョイコブ・ワイズバーグ 著, 古賀林 幸 訳, 日本経済新聞出版, 2005年7月, [Amazon](#), [7net](#))

『なぜ人を殺してはいけないのか - 新しい倫理学のために』(小浜 逸郎 著, 洋泉社, 2000年7月, [Amazon](#), [7net](#))

《ハティ:X:2024-07-16 - 黒人奴隷に関して》

<https://x.com/Squallfang/status/1813039782827815011>

《第2章 日本に渡ったアフリカ人 - 本の万華鏡 第14回 アフリカの日本、日本のアフリカ - 国立国会図書館》

<https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/14/2.html>

《岡 美穂子. :X:2024-07-20 - 黒坊の史料について》

[https://x.com/mei\\_gang30266/status/1814617353763889177](https://x.com/mei_gang30266/status/1814617353763889177)

《朱野帰子:X:2024-07-30 - 親になること》

<https://x.com/kaerukoakeno/status/1818095145134518318>

《大やま:X:2024-12-17 - 労働者がなぜ稼いだ賃金でわざわざ酒を飲むのか》

[https://x.com/Solzhe\\_shimarin/status/1869001601878573149](https://x.com/Solzhe_shimarin/status/1869001601878573149)

《一夫一妻制が生まれた理由は性感染症防止のためという説 - スラド サイエンス》

<https://science.srad.jp/story/16/04/15/0426253/>

《「魅力のない男性に対して嫌悪ないし排除を示す」女性は発情してる？～負の性欲という概念～ | rei | note》

<https://note.com/beatangel/n/nd1f80fe842c8>

《Isabelle - a generic proof assistant》

<https://isabelle.in.tum.de/>

《woodstock.club:X:2024-06-01 - 農業用ドローンの生き物感ヤバすぎ》

<https://x.com/woodstockclub/status/1796864229313835013>

《ガザの学校8割以上が破壊/ “未来奪う” 教育への攻撃/国連専門家・学者ら抗議 - しんぶん赤旗》

[https://www.jcp.or.jp/akahata/aik24/2024-04-23/2024042305\\_01\\_0.html](https://www.jcp.or.jp/akahata/aik24/2024-04-23/2024042305_01_0.html)

## ● Wikipedia

《我思う、ゆえに我あり - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%88%91%E6%80%9D%E3%81%86%E3%80%81%E3%82%86%E3%81%88%E3%81%AB%E6%88%91%E3%81%82%E3%82%8A>

《四法印 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%9B%E6%B3%95%E5%8D%B0>

《キメラ - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%A1%E3%83%A9>

《ヤムナ文化 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A4%E3%83%A0%E3%83%8A%E6%96%87%E5%8C%96>

《パンゲア大陸 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%83%B3%E3%82%B2%E3%82%A2%E5%A4%A7%E9%99%B8>

《レムリア - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AC%E3%83%A0%E3%83%AA%E3%82%A2>

《北極星 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E6%A5%B5%E6%98%9F>

《Pangea - Wikipedia》

<https://en.wikipedia.org/wiki/Pangea>

《聖絶 - Wikipedia》

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%81%96%E7%B5%B6>

《カノッサの屈辱 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%8E%E3%83%83%E3%82%B5%E3%81%AE%E5%B1%88%E8%BE%B1>

《グリセリン - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B0%E3%83%AA%E3%82%BB%E3%83%AA%E3%83%B3>

《シェルドレイクの仮説 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%82%A7%E3%83%AB%E3>

[%83%89%E3%83%AC%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%81%AE%E4%BB%AE%E8%AA%AC](https://en.wikipedia.org/wiki/Pure_type_system)

《Pure Type System - Wikipedia》

[https://en.wikipedia.org/wiki/Pure\\_type\\_system](https://en.wikipedia.org/wiki/Pure_type_system)

《モナド (哲学) - Wikipedia》

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A2%E3%83%8A%E3%83%89\\_\(%E5%93%B2%E5%AD%A6\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A2%E3%83%8A%E3%83%89_(%E5%93%B2%E5%AD%A6))

《シャニダール洞窟 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%8B%E3%83%80%E3%83%BC%E3%83%AB%E6%B4%9E%E7%AA%9F>

《アーシュラマ - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%A9%E3%83%9E>

《神聖娼婦 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E8%81%96%E5%A8%BC%E5%A9%A6>

《梅毒 - Wikipedia》

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A2%85%E6%AF%92>

《レミングス - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AC%E3%83%9F%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%82%B9>

《弁証法 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BC%81%E8%A8%BC%E6%B3%95>

《トロッコ問題 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%88%E3%83%AD%E3%83%83%E3%82%B3%E5%95%8F%E9%A1%8C>

《四諦 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%9B%E8%AB%A6>

《全能の逆説 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%A8%E8%83%BD%E3%81%AE%E9%80%86%E8%AA%AC>

《ラプラスの悪魔 - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A9%E3%83%97%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%81%AE%E6%82%AA%E9%AD%94>

《ガネーシャ - Wikipedia》

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AC%E3%83%8D%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A3>

## ● JRF 著作

『エアロダイバー - 他五篇』(JRF 著, JRF 電版, 2016年3月, [Amazon](#), [BOOK☆WALKER](#), [Booth](#))

『道を語り解く - 第2版』(JRF 著, JRF 電版, 2016年3月 第1版・2020年3月 第2版, [Amazon](#), [BOOK☆WALKER](#), [Booth](#))

『神々のための黙示録 - 第2版』(JRF 著, JRF 電版, 2016年6月, [Kakuyomu](#), [BOOK☆WALKER](#), [Booth](#))

『「シミュレーション仏教」の試み』(JRF 著, JRF 電版, 2022年3月, [Amazon](#), [BOOK☆WALKER](#), [Booth](#))

『宗教学雑考集 - 易理・始源論・神義論』(JRF 著, JRF 電版, 2024年1月 第0.8版・2025年3月 第1.0版, [Amazon](#), [BOOK☆WALKER](#), [Booth](#))

『サーベイ: 反大陸とブラック・クラウド・アース』(JRF 著, JRF 電版, 2024年8月, [Booth](#))

『サーベイ：弥助問題：日本で黒人奴隷が流行した？』（JRF 著, JRF 電版, 2024年8月, [Booth](#))

『サーベイ：スピノザの思想』（JRF 著, JRF 電版, 2024年11月, [Booth](#))

『サーベイ：コード・ブッダ、デカルト、ヘーゲル』（JRF 著, JRF 電版, 2024年12月, [Booth](#))

《JRF のひとこと》

<http://jrf.cocolog-nifty.com/statuses/>

《ジルパのおみせ - BOOTH》

<https://j-rockford.booth.pm/>

《易双六「The JRF Tarot」印刷用PDF - ジルパのおみせ - BOOTH》

<https://j-rockford.booth.pm/items/4485160>

《易双六トークン 缶バッジ - ジルパのおみせ - BOOTH》

<https://j-rockford.booth.pm/items/5315233>

《易双六 Youscout ～ Tarot Solitaire》

[http://jrockford.s1010.xrea.com/archive/youscout/youscout.html?default\\_lang=ja](http://jrockford.s1010.xrea.com/archive/youscout/youscout.html?default_lang=ja)

## 宗教学雑考集 易理・始源論・神義論 (試用版)

---

2024年1月 5日 第0.8版

2025年3月11日 第1.0版

著者 JRF

出版者 J R F 電版

<http://jrockford.s1010.xrea.com/epub/>

---

Electronically Published in Japan.